

都構想は大阪のためになるか？

「やってみると分かん」「いや取り返しつかん」説明会騒然

「やってみると分かん」「いや取り返しつかんことなる」「無駄がなくなるんならええやないか」「いや一重行政の無駄なんてない」。四月に三十九カ所で開かれた「特別区設置協定書（大阪都構想）」についての住民説明会では、橋下市長が「説明」を重ねれば重ねるほど、市民からは賛成意見と共に、疑問と批判も噴出。特に「市民のためではなく財界奉仕ではないか」との指摘にはまともな答弁が聞かれませんでした。このうち港区で開かれた説明会（十七日に港区民センター）でのやりとりから、「都構想」が一体何のために企てられたのか、そしてそれへの賛否を問う住民投票（五月十七日）に区民はどのように臨むべきかを改めて探ってみました。

「財界奉仕が目的では？」に市長答えられず

十時半。同センターのホールでは、定員二百八十名が満席となり、立ち見も出る熱気の中、

まず市の担当（大都市局）がなじみのない内容なので、住民投票の判断の一助となるよう概略

を示したいと前置きして、「特別区設置協定書（大阪都構想）」の骨格を説明。「説明ハンフレッシ

ト」に沿って、約二十分「回り」、「協定書のイメージ」「特別区の名称・区域・本庁舎の位置、議員定数」「特別区の概要」「特別区と大阪府の事務の分担」「特別区の職員体制」「大阪市の財産の取り扱い」「市の債務の取り扱い」などを示しました。

◆ 「このままでもいいのですか」と市長

続いて橋下市長が「大阪府知事と大阪市長の両方の経験を通じての自分の考えを述べたい。

その上で賛成・反対の判断を」と前置きとして「協定書の提案理由」を説明。約一時間十五分に回り、①「重行政の無駄をなくすため②大阪全体の発展を図るため③より市民の気持ちに寄り添うため」と提案目的を示した上で、それぞれが「今のままでもいいのですか」「これから作り直すのか」と市民に「選択一を迫りました。この間、会場からは、あまりに長い『所信表明』に「質疑応答の時間が無くなるのではないか」の音が、特に終盤、何度も飛び交いました。

◆ 「重行政は理由にならない」

残りの時間は十五分を切りましたが、「ここから質疑応答がスタート。この中では主に次のようなやり取りがありました（抜粋・要約）。

「市長の演説の後、ようやく始まった質疑応答



「重行政の無駄の代表例としてりんくうゲ

ートタワービルとWTCビルの破たんが挙げられているが、どちらも当時の府政・市政それぞれで失敗であった。重行政とは別問題。提案理由として成り立たない」（男性）→「同じく失敗をこの先も重ねてよいのかどうかという意識の問題だ」（市長）

◆ 「大阪は必ずプランいらいぬ」

「東京はタイナミックに建設が進んでいるのに大阪には将来ビジョンがない」と市長は言うが、東京に人や物や金が集まるのは特別区があるからではなく首都だから。「極集中で日本がいびつになっている弊害もある。その真似をしよつとというのは大阪の位置や歴史を見ないもの。そんなビジョンは無い方がよい。大阪をつぶすのではなく建設するプランを」（男性）→「東京のように発展しなくてもいいのかどうかという意識の問題だ」（市長）

◆ 「住民との距離は遠くなる」

「二七〇万人の大阪市を数十万人単位の五つの区に分けたら行政と住民の距離が近くなる」というが、それが目的なら、例えばこの港区の職員がもっと力を発揮できるような制度内でもっと権限と金を与えなければいけません。広い土地に二十数万人の湾岸区になれば距離はよけい遠くなる」（男性）→「区々これ以上権限と金を移すのは今の制度では無理だ」（市長）

◆ 「目的は財界の救済ではないのか」

「特別区を設置するのにも最初は六百億円かか

るが十七年経ったら、千七百億田浮いてくるというが、とれだけ真実味があるか。仮にそれだけ浮いたとしても市民生活に役立つ保証はない。六百億もの巨額を使ってしまうこの構想を進めようとするのは結局、カシノ資本やゼネコンや大銀行の儲け口を作つてやるよじ「一番の目的があのとはほほほな」か。もしいなごなり、その根拠を示してほじ「(男性)→将来の大阪の発展のために六百億を高いと感じるかどじかどじ意識の問題だ」(市長)

以上のようなやり取りの間、会場には拍手や声援や怒りがやみませんでした。

◆「アカンかったら修正を」

終了後、参加者からは次のような感想が聞かれました。賛成派からは――

「どこかへやこいみんと分からん。変化を恐れたら何もできん。アカンかったら修正したらええわ。」(五十代男性)

「無駄をなへすためなり(特別区設置も)このではないか」「駄目なら区議員を選び直すなよじ修正すなほじ」(五十代女性と母親)

「橋下市長の説明はよへわかった。反対派の

意見は反対のための反対で、建設的ではなかった。対案がなかった」(六十代女性)

◆「市長は問題だらけじだ」

一方、反対派からは――

「橋下市長の演説が長すぎて質問時間がわずかだったのは意図的。許せなじ」(五十代男性)

「市長の説明はからじ時間をよじ、市民を無視した運営だ」(六十代女性)

「市の説明や市長の演説はアメリカを隠し、バニラの夢ばかり振りまじて賛成・反対を迫つてじ」(五十代男性)

「野界の受け皿作りじ批判に市長は答えられなかった。問題をさらじしていた。一番痛い所を突かれたからや」(六十代男性)。



この説明会に参加した読者なら感じられたように、特に質疑応答に入つてからの会場は騒然とした雰囲気だった。そのうちの一事から、この「大阪都構想」提示がいかに善悪な市民を分断しているかが分かりました。参加者のうち、賛成派には「やこいみんと分からん」とじこの構想への期待と共に橋下流の独裁的強押しを

の共感もあり、一方の反対派には「取り返しのつかじなじ」とじこの構想への危惧と共に橋下市長の市民無視の手法への反発も強へその感情的対立は相違に深刻なものがあじました。そして、そこから見えじきたのは、やはり全ての市民に共通の「大阪が良い方に変わつてほじ」とじこの願じことだ。

しかし、だからとよじ、そのした分断を意識的によじ出し、その混乱を縫つて、その財界界仕・市民抑圧・地域破壊のプランを二気て通つてしまおつてじ橋下氏の目論見を許すわけにはいきません。なぜなら、賛成派の女性の声にあつた「反対なら対案を示せ」とじこー見もつてもな言じ分は、この際、通らないからです。言つてみれば、都構想は大阪市を破壊する一方的なテロのようなものであり、これに對してはよじかく「止めじ」よじ市民の共通の唯一の対抗手段よじ、止めた上、建設的なプランも話さよじからいよ。

港新聞は明確に「大阪都構想」に反対します。住民投票での読者の皆さんの賢明な選択を期待するよじ。

あさやけ

「一人を殺せば不義の行為として必ず死罪にされる。……十人を殺す者は十の不義を重ねたのひあり十倍の死罪にしなければならず、百人を殺す者は百の不義を重ねたのであり百倍の死罪にしなければならぬ。」これは古代中国の戦国時代に博愛や節約を説いた思想家・墨子(もくし)の四(四〇・二九〇)がその著『非攻篇』で述べた一節です。この論法で行へば、かつてオウム真理教がやったように、このまえ淡路島でやられたように、いまイスラム国がやっていることなどは、その犠牲者の数だけ不義と罪があつていふのでしょう。▼続けて墨子は言ひます。「もし天下の君子の誰もが弁えてこの、しかし、大きな不義を犯して人の国を攻めると、非難しなごうを警む、正義はよむ。それが不義であるの、何を全然に存じないなら、▼読者は、この言葉をまず誰に聞かせたいですか？ 筆者なら、ハリアメリカ第三大総領トルーマンです。この連中の先づ日本を叩いて戦後世界の主導権

を握りたいがために、もはや立ち上がることもできないうちに人体実験も兼ねて原爆を投げつけ、数十万の命を中けりついに焼き殺した残虐行為は、「米兵の犠牲を抑えるためになごいだけ言い繕おつて消せるものではありません。早晚、この国のどの歴史教科書にも数十万の不義を重ねた史上最悪の罪人」としてその名が記されるでしょう。▼折しも明後日は大阪都構想への賛否を問う住民投票日。大阪の未来をどうするのかが、市民の認識が厳しく問われます。筆者もその住民説明会を質問しましたが、それに対する市長弁は、「こちらの意見をねじ曲げ、問題をすり替へ、真の狙いを覆い隠す、実に不誠実で独りよがりなものでした(詳細はフットプリント記事)」「本紙主張「参照」。「重行政の無駄をなくす」「東京のように活性化させる」「行政と住民の距離を近くする」「六百億かけて二千七億浮かす」などの偽りの看板へ、実際には市民の田税を財界本位に返さ上げようとする、この狡猾な企みや、善良な市民がどう見抜けるか。その「売国ならぬ売阪の計画が罷り通るかどうなのか」がめぐるようについに

思います▼その、かの墨子さんに再登場願ひませう。まず田へ一田でも盗めば不義の行為として必ず罰せられる。一万田を盗む者は一万の不義、百万田を盗む者は百万の不義を重ねたのであり、それぞれ一万倍、百万倍の罪に定めなければならぬ。どういふか、かつての三億田強奪事件は三億の不義を重ねたことになり、三億倍の罪に定められねばならない訳です。ね？「さう、さう」では天下の君子の誰もが弁えている。が、メチャクチャかりに不義を犯して町や国の財産をとり、誰かにつけてやっても、非難されずに済むならぬ。こんなおかしやないかと言われるかどうかは分かりませんが、要するに、アメリカ資本の求めに応じたカジノ誘致や、セネコンが大喜びする大型開発などを続けるために、市民の数十億もの税金を半永久的に盗み続けようとする都構想は、さういふ「数千億の不義」として「数千億倍の罪」に定めらねばならぬ▼さう、その正義の審判を、トルーマンに対する世界市民よ、も一足早へ、橋下氏に対する大阪市民が下さうべきか、大いに期待せねばいけません。

叫びたい！

もりとも けん
森友 建 さん (夕風)



学びの意義と秘訣示し

子供たちに生きる力を

※この提言は、「一般社団法人大阪珠算協会」(森友建会長)が二月一日に北区中之島の大阪国際会議場(フロンキープ大阪)で開いた「二〇一四年度珠算優良生徒表彰式並びにジュニア奨励賞授与式」で森友会長が主催者としてあい

さつされた内容を元に、新たに書き下ろして頂いたものです。(編集部)

◇

世界でトップ級の学力レベルを誇るフィンランドでさえ、常に教育の在り方を注視し、制度改革を怠らない。大阪では、子供たちの学力向上を実現させる秘策が見つからなくて、教育行政は試行錯誤を重ねつつ頭を抱えている。通り一遍の教育論では対応し切れるものではないのかも知れない。最近の教育関連情報から学んだ教育水準向上に役立つようなヒントを紹介したい。

◆ 考えなご(日本、キヌのフィンランド)

PISA(OECD経済開発機構が一九八八年から行う学習到達度調査)の調査で、日本の成績が下降し続け、ピサショックと呼ばれて久しい。この調査では、知識量よりも、主体的に考え、問題を解決する能力が求められるが、日本は記述式問題の無答率が高く、成績がよくな。日本の子供は思考が受動的で、情報を受け取るだけで、それを元に考えたり、自分の考えを論理的に組み立てたりするのが苦手。大学で

も研究のテーマを与えやり方も教えないと、どうしたらよいか分からない学生が多いと言われる。日本の学生は知識を吸収するだけで、考えることを嫌ったため、主体的に考える能力が不足しているのかも知れない。

一方、フィンランドでは、勉強は生きていくために必要なものと理解させ、考えさせる教育を行うので、PISAの得点が高いのだろう。同国の教師は大学院で修士課程を修めなければならない。教師は信頼され、尊敬される対象で、子供も教師に憧れを抱く。優秀な人間が教師になり、次の世代を教育する好循環が生まれている。

◆ 熊沢番山に触発された大野教授

昨年暮れ、ノーベル物理学賞を受賞した大野浩(名大教授(五四))の告白に共感を覚えた。彼は、高校時代に聞いた静岡県立浜松西高等学校長の訓話(お話を)が人生の岐路になったと述懐する。訓話の核心は、江戸前期の儒学者で備前岡山藩の改革に成功した熊沢番山(のうま)の歌(うた)にある。「憂(うれ)事の尚(なほ)の上に積(た)もれかし、限りある身の力(ちから)試(こ)さん(さい)い(い)とよ、降りかか(か)つ(つ)い(い)。力の限

界を試してやる。天野先生は、その歌を聞いたとき、「どう、僕も死に物狂いで頑張ろう！」と心に決めたそうだ。何かに触発されたその日の大事業を物語っている。

◆教育の大切を訴えたマリノさん

同じく昨年暮れ、パキスタン人少女マリノさん(11才)はノーベル平和賞を受賞した。受賞の前年、国連総会で行った彼女のスピーチの結び部分で心を打つものであった。

One child, one teacher, one pen and one book can change the world. Education is the only solution. Education first!

世界中の平和は、教育を普及するだけでしか実現できないという文意になる。私たち日本人は、望めば最高の教育を受ける権利やチャンスが与えられている。一方、望んでも教育を受ける権利もチャンスも与えられない世界の若人が数億人もいる現実がある。この大きな現実のギャップに思いを致さねばならないことを学びたいことが出来た。

◆人生モデル示したホブキンスさん

約四十年前、プロ野球広島カープの主軸を二

年間務めたケイル・ホブキンスさん(現在、オハイオ州で病院を経営、整形外科医)は、「すべてのエネルギーをたった一つの目標に注ぎ込むのは悲しいことだ。神様は様々な才能を与えてくれているのに」という言葉を残している。

野球の合間に医学書を読み、広大医学部にも随分と通ったことである。野球に打ち込みながら、第一の人生をイメージし、自分の潜在能力を最大限活かすことを考えていた。人生を真事に生きのケイルを私たちが示しているのだと思われる。

◆子どもの効用見直し学力向上

直近の経済センサス総務省統計局施行調査のデータなどは、大阪府内のおおはん学習者数が全国一だと報じている。大阪府を100として、一位の愛知県が70、二位東京都は48である。大阪では、家庭のおおはん教育に対する理解度が極めて高いこと、おおはん指導者の熱意が大きいことが読み取れる。

おおはん学習で子供たちの情緒が安定し、学習意欲が強化されるといって実験データがそろって来たことで、基礎学力向上のためにはおお

はん学習の強化が有効だと言えることになった。大阪府内のおおはん学習者数は日本一であるが、学習者の比率は十分ではない。おおはん学習の数多い効用を見直し、基礎学力構築につなげていくことが、ひいては大阪の子供たちの学力向上につながり、彼らの将来を明るくするようになる。

上記の賢人たちが語る、学びの意義とその秘訣を熟知し、実りが生じる学習を本気でやって欲しい。Mythical Juku、子供たちの生んだ力はより強く、より大きなものに違いない。ぜひ花開く、と説く仏教師・坂村眞民さんの教えをかみしめながら…。



森友建さんプロフィール 昭和十二年港区生まれ。小学四年から珠算を習う。北野高、甲南大卒。同二十三年「森友綜合教室」(夕田一・三・七、TEL・FAX六五七二一六八七七)開設。日本珠算連盟理事長などを経て現在、一般社団法人大阪珠算協会会長、近畿珠算連合会代表。ブログ「世界に広がるおおはん文化」。ホームページは森友綜合教室で検索可。

叫びますよ！

吉川 れいこさん (市岡元町)



大阪を壊し生活を壊す

都構想に「反対」を！

四月からの介護保険料の史上最高の引き上げで、大阪は全国随一高くなりました。また、株の投資の失敗で、年金支給額が大幅の減額。「お金のついでにかねへ」と「医療費払ったためだけにならぬものだ」「一体何をやって

いるのか！」そんな悲鳴ばかりが私の元に寄せられていきます。

◆ 年金も国保も介護も…

安倍政権は、国民の年金を勝手に株に運用して損失を作り、支給額を引き下げてきました。年金は私たちが納めたお金です。人のお金を勝手に使うなんていうことが許されるわけがありません。

そのうえ消費税を引き上げ、「医療・福祉に使う」と言っていたのに、国保では国の責任から撤退し、子ども医療助成までも大改悪へ。介護事業所や特別養護老人ホームが二分の一はつぶれるという介護報酬の引き下げは、まさに壊す構想。

◆ 都構想で壊す生活破壊

こんな時だからこそ、大阪府も大阪市も、国の悪政に物申して、府民・市民を守らなくてはならないのに、松井知事も橋下市長も五月十七日の「都構想」の住民投票で大阪市と港区を壊すことばかりを言っていること、本当に腹が立ちます。

大阪市が壊されたら、大阪市の補助や減免制

度がなくなり、国保料、介護保険料、水道料金の大幅値上げがすすめられるでしょう。その上、大阪市の障害者特別支援学校は廃止。

先日、市立泉尾工業高校の新生徒「せいかく苦労して入った高校を廃校にするという。僕も投票したい」と訴えられました。子どもたちの思いに答える大人の責任が、今度の住民投票では問われていないと思います。

◆ 港区をなめぐる橋下市長

私は港区に「回行われた」特別区設置についての住民説明会」に全部参加しました。十分しか港区では質疑時間を与えられなかったんですよ。浪速区では四十五分だったものが、きつちがめらわれています。「港区をなめらうっていうんかー」そう思いました。

そして、目が飛び出る思いがしたのは、「ああ、赤バスは、僕がなくなりましたよ。教育の予算が不足しているんだからしょうがない」と市長が言ったことです。赤バスを必要として、今でも復活をのぞむ人たちの多い港区でよくそんなことがいえるものだと思います。住民に謝りたいと思います。

◆ 懐くもかしの市長

子育てのお母さんとも怒っていました。「ハワハ」教育長やセクハラ公募校長はごりごりねえ。子どもに給食たべてほしい、橋下さんにはたまたまねたわ。別のママは「ボランティアでなんでもやれどこのが市長のやり方！ 学校警備員補助を復活せよ」。怒りは止まりませぬ。

市長は「高快速道を延伸し、なにわ筋線を作らせ、カシノをいへる」だけを寝てもめりもまるといふ「しんご」だった。区民不在の市長の描へんの「相乗りして脱線するわけにはいかませぬ」。

◆ 港区民の英知で発展の道

世論調査では、港区は「区政」の方が多くて「かわらぬ」です。戦後、苦労して水の被害をのりこいたへらあげられた港区の街への英知、民識があるからではないでしょうか。防災としての中斷つばなをなごりごりです。港区で培ってきた英知を豊かに発展させる道。市民が選択しなければならぬ道ではないかと考えています。

(日本共産党 港区府政対策委員長)

シリーズ・読者の提言

叫んでくつも!

おおつき かずなり
大槻 一成さん (磯路)



→ 市岡元町環境常時観測局。この測定値と自主測定で四三号汚染の正体を突き止めつつある

国道43号線沿道の

汚染度調査活動の報告

「弁天町交差点の磯路側角に拠点医療を」といって区画整理記念事業の説明会で私は「国道四三号線沿道の環境問題の解決が先決ではないかと質問・意見を出させていただいたことを先々の港新聞『叫んでくつも』『欄に報告したところ、先日の読者投稿欄』みやサロン』に「意外な」だが重要な「角度」この感想が出されました。

同事業の説明会で区長さんは「市川の環境基準は達成された」。さらに「環境改善」の「しんご」で「きたい」と答えられました。が、「ああ、四三号線問題は伝わっていない」と感じた私は「私たち『このまちづくりを守る港区民会議』が継続してきた調査活動の報告を、区民のみなさんにも行政にもつぎつぎなかつたことを申し訳なく思い、」の句を綴りました。

二〇〇四年九月九日、テレビでの「〇チャンネル」が「汚染トップの街」と報じた港区の国道四

三宮線問題が、その後ひなつてきたが、今までのなか、港区民会議の「自主測定運動」として情報公開で得た、国土交通省の市岡常時観測局の測定値」などの範囲で、順次、報告させていたのだよという思いがある。

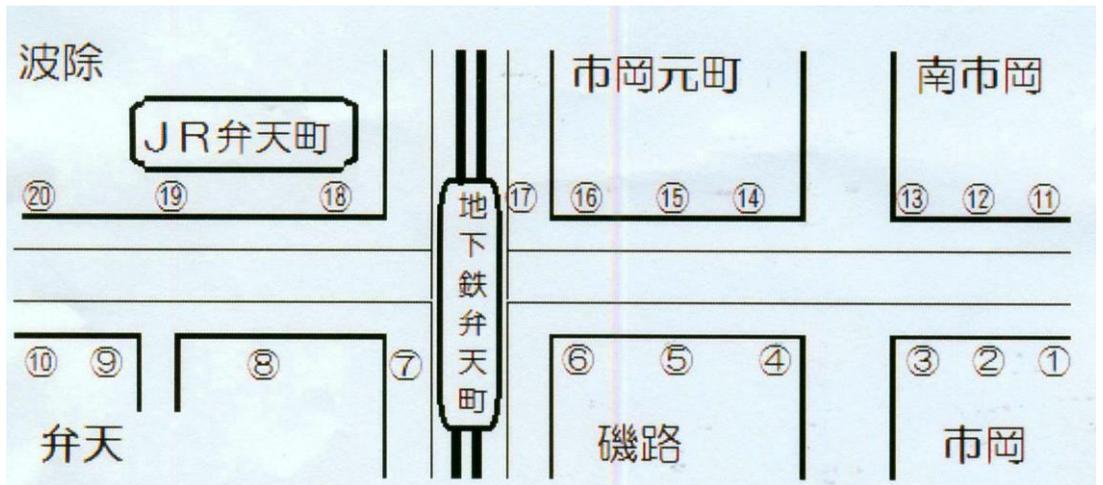
◆ 多様な測定方法を駆使して

大気汚染は多くの場合、無色無臭・風任せで大変とらえにくいものです。位置のわずかな違い（例えば四三三線の海側と陸側）でガラッと違う数値が出ます。風のあるなし・向き・気温でも違います。測定方法・器具も肝心。一点で時間の経過に伴う変化をとらえるには「常時観測筒」がすべてです。多くは広域にわたるには「簡易測定カプセル」が有効です。

◆ 自主測定の信頼度を確保

港区民会議は「大阪から公害をなくす会」とともに毎年六月と十一月の第一木曜午後八時から二十四時間、四三三線沿い一〇カ所でカプセル測定しています。下の図はその箇所です。その下の表はその測定値です。

今回の測定が「カ目遅れてしまったケガの功名が、「大阪から公害をなくす会」公害環境測



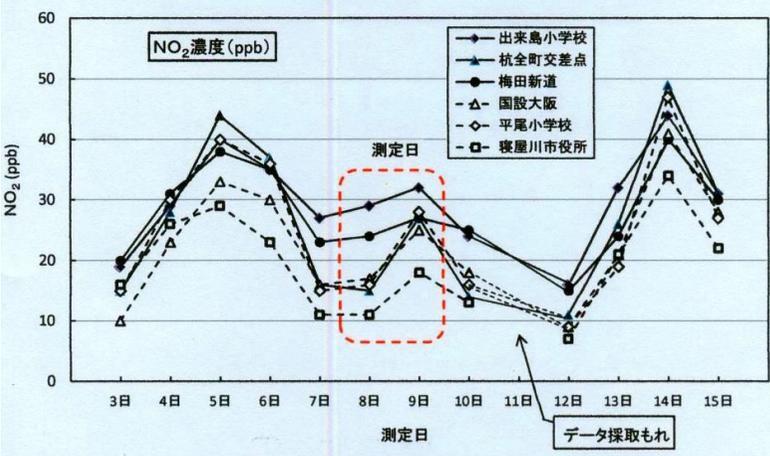
→ 港区民会議が自主測定した箇所（下が海側）

→ 港区民会議が上図の自主測定箇所を実施した測定値（左が海側、右が陸側）

国道43号線西側（海側）			国道43号線東側（陸側）		
調査日時	2014/6/5	2015/1/8	調査日時	2014/6/5	2015/1/8
カプセル設置箇所・番号	測定値ppb	測定値ppb	カプセル設置箇所・番号	測定値ppb	測定値ppb
市岡3-2 43号線沿 ①	41.8	48.2	南市岡3-10 43号線沿 ⑪	52.7	62.2
市岡1-2-4 43号線沿 ②	43.5	58.0	南市岡3-11-18 43号線沿 ⑫	41.2	61.7
市岡1-1-2 43号線沿 ③	35.3	58.1	南市岡3-11-30 43号線沿 ⑬	49.1	62.0
磯路1-1-18 43号線沿 ④	47.7	44.6	市岡元町3-12-4 43号線沿 ⑭	35.7	48.3
磯路1-5 東堺43号線沿 ⑤	42.4	60.9	市岡元町3-12-11 43号線沿 ⑮	33.1	9.3
磯路1-7 地下道出口43 ⑥	45.5	58.9	市岡元町3-11-4 43号線沿 ⑯	50.8	69.3
弁天町交差点 西側 ⑦	43.8	12.3	弁天町交差点 東側 ⑰	40.6	9.3
弁天1-2-1 43号線沿 ⑧	20.7	58.2	波除3-11 駅南口 43号線沿 ⑱	47.6	58.2
弁天4-1-18 43号線沿 ⑨	25.1	46.5	波除3-11 駅北口 43号線沿 ⑲	60.1	52.0
弁天5-1-1 43号線沿 ⑩	36.4	9.8	波除5-10 43号線沿 ⑳	14.4	48.2

は何らかの測定ミスと思われる。

定研究会」の代表西川榮一さんから「港区民会議の測定データを解析する時の参考に」このカプセル測定時間帯の自治体局のデータを送って下さりました。一は二〇一五年一月八日十八時から二十四時間の大阪府域自治体測定高九十一回のデータ(省略)。二は測定日前後の出来島及び六回の測定値の変化を示した左のグラフ。



同じ測定日で市内測定局最高の出来島が二〇・四ppb(1ppb=0.001ppm)。四三線沿道が二・四ppb(0.004ppm)。二は同測定日の天気図と府域の風向・風速図(省略)でした。おかげでカプセル左図による簡易測定の測定値の信頼度を確信しようということができました。

そのころにも、港区の四三線沿道のNO₂値は大阪市内の自治体測定局と比べても異常に高い。「大阪府でも環境基準は達成した。港区四三線沿道も心配なく」には到底そんなものではありませぬ。

◆「国元町観測局」測定値からも露染汚染(露)

港区には、市国元町二丁目の交番の北側に「市国元町環境常時観測局」があり、十年来測定を続けています。四三線の陸側に位置しますが、その観測地から、海側の拠点病院まで地



なで磯路側・市岡側の汚染度を知らずともおおむね可能では。

この観測局が設置される以前に、大阪市が海側の市岡中クラブハウスに「移動測定局」を設置して、隔々月に数カ月間測定を行ない、「市岡元町観測局」と重複して測定した時期がありました。当時、あまりに高い汚染度に驚いたせいで、大阪市は「観測局と連携して観測は続ける」との口実で移動局を港区に設置しなくなりました。しかし、海側と陸側の両方で観測した測定値は、きわめて特徴的な違いを持つグラフを描き、この汚染の正体をききぬる手がかりを示しました。

「このグラフを守る港区民会議」はこの観測局の測定値の電子記録のほかに、情報公開によって得られている、その分析によって「汚染マップの街」の報道も呼び起しました。そのおかげで、この街の汚染マップの分析が、自主測定や観測局測定値の分析などを、次に以降に「報告せよ」とされたという思ひが。

(このグラフは、市岡元町環境常時観測局のデータ)

叫びますよ！

おおの
大野 ひろ子 さん (南市岡)



介護報酬の大幅引き下げで

事業所・労働者は存亡の危機

マスコミでも報じられました。この四月から介護報酬が大幅に引き下げられました。

介護報酬とは、介護サービスに対して国が決める公定価格。介護保険制度が始まって以来、不当に低く抑えられてきました。小さな介護事

業所にとって、介護報酬は唯一最大の資金原資と云って過言ではありませんが、これがせりやに下げられたのです。大げさではなく、介護事業所と介護労働者は存亡の危機に立たされていきます。

◆ 超低額報酬の一例、家事援助

例えば大阪市の場合、家事援助は、四十六分以上はどれだけ働いても二六〇八円、これが四日以降「一五〇円」。しかもこの金額には移動や記録に費やす時間の賃金、保険請求や必要不可欠な事務一般の経費も含まれるのです。

経験者なら分かると思いますが、家事援助だからラフで簡単というものではありません。介護が必要な人の家事を四十六分で終わらせることは大半の場合、できません。要するにこの報酬額は、ただ働きを前提に決めているのです。介護労働者をなめんなよと怒りがフツフツと湧いていってはいませんか。

これを保険医療に支払われる診療報酬と比べてみましょう。例えば、ある利用者とは月一回診察を受けていますが、その診療報酬は一回あたり約三万五千円。たぶん二時間診療でも報

酬額は変わりません。この格差、皆さんは思いわれますか！

◆ 介護破壊が待っているー

政府統計によっても、介護労働者の賃金は全産業の平均賃金より月額十万円も低く、そのために人手不足、介護の質の低下が深刻な社会問題となっています。その上このしかかる介護報酬大幅引き下げなのです。

今回の引き下げで特に狙われたのは小さな事業所です。これが一〇割近い切り下げ。そして特別養護老人ホーム。金持ちでなくても手が届きそうな「いわば終の棲家」ですが、六ヶ月前後の切り下げ。その先には、事業所の閉鎖や倒産、解雇、際限ない長時間たた働き、処遇改善と虐待の連鎖、利用者切り捨てや施設からの追い出し等々、介護破壊が待ち受けています。

◆ 賃上げの約束は大ウソー

ところが、国はいかなる切りの下げを強行しようきながら、その一方で二万五千円の賃上げが約束されているかのような宣伝をやっていきます。が、実際に高い「処遇改善加算金」を取れるのは、一定規模の経営基盤があり、有資格者の確

保や、その他もろもろの条件をクリアできる一握りの事業所だけなのです。

しかもこの加算金は、労働者一人につき月額いくらという形で支給されるわけではありませぬ。実際に提供した介護サービスの報酬額の上に、その数割(多々の場合ロク五割)を上乗せして支給する仕組みです。

◆おためし関係者が声あげ闘おう！

以上のような大改悪に対し、介護に関わる多くの人たちが「このままでは生きられない！」と危機感を募らせています。これに立ち向かうには、介護労働者、介護事務所、自治体の行政さらに利用者やその家族・親族等々、あらゆる介護関係者が、座して死を待つのではなく、声をあげ、力を結集するしかありません。

五月二十日(金)には介護についての大学習集会が予定されています。下段「あれこれ」が「ケア」案件＝編集部。将来の要介護者も含め、介護に関わる方はぜひ参加し、国と闘つ以外に介護を守る道はないことを、一緒に学びましょう！

(港交)同南労会文部 ☎五五八二一四八五八

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●海の写真コンクール 海への関心を高めるため「海の日」に向けて毎年実施。海運・造船・港湾・湖・川・魚など広く海をテーマにした写真を募集。カラープリント四ツ切(ワイド四ツ切を含む)又はA4サイズ、いずれも平成十六年八月以降に撮影した単写真に限る(合成や変形で事実と異なる加工作品は不可)。六月十五日(月)必着。近畿運輸局長賞など各賞四十点。発表は八月下旬。展示は海遊館エントランスビルで七月十日～八月九日に上位入選作品のみ。

応募及び詳細は主催の公益社団法人近畿海事広報協会(T552-0021 大阪市港区築港二-七-一五港振興ビル204号室) ☎六五七三-六三三七、HPはhttp://kinkeikaiji.sakura.ne.jp/へ。

●全国中学生・海の絵画コンクール 海への関心と知識を深めるため毎年実施。テーマは①外航船の絵(コンテナ船・タンカー・大型貨物船・フェリーなど)、着岸・荷役など(活動風景を含む)

←海の写真コンクール①と全国中学生・海の絵画コンクール②の各イメージ



②海に関する絵(海に関する絵画・未来図など)広く海に関するもの。海・船・港に限らない。水彩・パステル・クレヨン・版画などで大判画用紙(三八センチ×四一センチ)に(標語のような文章は入れない。裏面に画題・学校名・学年・性別・ふりがな付き氏名を記載。一人一点。六月十五日(月)必着。上位入選作品を七月十日～八月九日に海遊館エントランスビルで展示。申し込み・問い合わせは近畿海事広報協会(前出)へ。

●介護保険重要学習会 介護事業者も職員も利用者・家族もやっつけていけない介護環境の現状を確認し、行政の説明では分からない事実を知

り、事業所閉鎖や倒産・解雇・待遇改善を防ぐ道筋を学び考え合う。講師は日下部雅喜さん(福祉介護オンブズネットおおさか事務局長、介護保険関係の著書多数)。五月二十日(金)十八時半〜二十時半に「エルおおさか」(地下鉄天満橋駅から徒歩西へ二百メートル)で。資料代五百円。安心できる介護を「懇談会準備会」と労働運動の再生をめざす懇談会が呼びかけ。問い合わせは☎六五八二一四八八ONPOみなとまで。

●港区私たちと戦争展 あの戦争から七十年。

次世代に戦争の真実を語り継ぎ、平和を送り継ぐため、三年のプランクから復活開催。日中戦争、国防婦人会、大阪大空襲、原爆投下、戦後復興、平和運動などの歴史を写真・絵画・遺品



→過去の「港区私たちと戦争展」から

などで迎える。七月十五日(十七日)に港区民センターで。展示充実へ戦前・戦中・戦後のアルバムなど資料の提供歓迎(終了後返却)。成功へ五百円署名と広告掲載を募集。申し込み・問い合わせは主催の「港戦争展実行委員会」(連絡先☎六五七六・四八〇九)へ。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万二千円③会報を購読する④年間一千円⑤カンパする⑥税制上の優遇措置あり⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組二百円⑨テオ『よみがえる森』を購入する⑩二十分五千円⑪換金できる物を送る⑫古切手・書き損じはがき・外国コイン・商品券など⑬ボランティアになる⑭会報発送など⑮黄土高原スタディツアーに参加する⑯黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。次回は八月二十日(土)〜二十

十八日(金)の六泊七日。訪問地は中国山西省大同市。費用は十八万三千円。定員二十名程度。DVD『黄色い大地に広がる緑・草の根環境協力の二十年』を観る②緑化協力二十年を記念して制作。約三十分。無料③各種イベントに参加する④GEN第二十一回総会(八月十三日)⑤十三時半〜十六時四十分は大阪市立阿倍野市民学習センターで▽いずれも詳細・申込などはGENの事務所(市岡一・四一四一五階)☎六五七六・六一八一、FAX六五七六・六一八一、Eメールgentree@s4.dion.ne.jp、http://homepage3.nifty.com/gentree/へ。



→GENとクリニクラウンの活動イメージ

● **日本クワニクワウン協会** 入院生活を送る

子どもたちを定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クワニクワウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動。

二〇二二年度は三四病院を二六〇回訪問、約八千人の子どもと関わった。二〇二四年にはクワニクワウンが一人増えて十八名に。二〇二五年は十周年記念事業でクワニクワウンオランダ財団

へ研修▽支援の方法▽寄付する「会費」になる「ファンサー」(ひとり月単位のサポーターになる)「関連イベント」に参加する「他」▽いずれも詳細や申込は同協会(築港二・七・五 港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五・五五九一 Eメール info@cinicowns.jp ホームページ http://www.cinicowns.jp/)

● **ワークみなと「東北食品市」** 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心によさしい豆腐・豆乳・青豆(あおまめ)豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心

画面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から

「売り切れ次第終了」▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一・六・三、六五七一・七五二一)。

● **ムチ打ち(首・腰) 無料相談会** 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。五月二十四日(日)十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・六〇〇)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。

「ごついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール info@jikkoo110-nomura.com, TEL 六五七六・六〇七八, FAX 六五七六・六〇七九。

● **障害年金もれの心当たりある人は相談を** 障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度。このばいことが厚生労働省の調査で判った(二〇二三年七月)。原因の大半は「障害者

手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所(磯路三・一五・一七、六八五七一・五〇三二)まで。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

平和と生活の旗高く！

港地域メーデー、「都構想」反対も



「つぶせ安保法制!」「許すな労働法解体!」

「大阪都構想反対!」などを訴えながらみなと

通をテーマ行進する労働者 五月一日朝

「ストップ!戦争と格差拡大!」二万国の労働者は団結しよう!」。五月一日朝、みなと通に力強いシヨブレットコールが響きました。第八十八回「港地域メーデー」の行進です。主催したのは全国金属機械労働組合(港合同(南中區))。港区を中心とする中小企業労組の集まりです。これに「平和と福祉」を掲げる「NPOみなと」や一般市区民も合流、合わせて約二百人が「働く者の団結と闘い」を呼びかけました。

◆ 戦闘的伝統の独自に開催

メーデーは八時間労働制を闘い取ったアメリカ労働者のゼネスト(一八八八年を起源としています)が、その戦闘的な歴史と性格を薄め、メーデーを単なる「お祭り」にしてしまった。近年の傾向に警鐘を鳴らすため、港合同は十八年前から独自の「地域メーデー」を催してきました。

今年はいりまんショックから東日本大震災、原発災害へと続く庶民生活の未曽有(みぞう)の苦境に加え、「アバノミクス」で景気回復との宣伝の裏で消費増税や福祉改悪で貧困と格差がますます深まり、戦争体制の整備と一体で労働運動や平和運動への攻撃も厳しさを増す一方、「負けてたまた

るか!」と労働者や庶民の怒りと反撃もかつてなく高まる中での開催となりました。

◆ 「都構想」反対を「港合同」委員長

午前十時から入舟公園(八幡屋)で開かれた集会では港合同の中村委員長が「安倍首相がアメリカで勝手に安保法制つべりの約束をしたのは、戦争させない国つべりを破壊する行為であり許せない。この中で都構想は、大阪を破壊するだけであへ、憲法改正国民投票の準備運動の根幹を揺るがす訓練として進められている。十七日の住民投票に向けて街頭宣伝をやるが、憲法改悪阻止と一体の闘いとして取り組もう」と、特に喫緊(きんげん)の課題である「都構想」反対での結束を呼びかけました。

来賓の朝鮮総連西大阪支部の沈委員長は「結成八十周年を迎えるが、この間、強制労働や慰安婦など歴史認識の問題、朝鮮学校抑圧など民族的自由の問題は何一つ解決していない。共に考えながら力を合わせよう」と呼びかけました。

◆ 「労働者の組織化を」と副委員長

基調報告に立った港合同の原田副委員長は「アジアで一千万人超、日本人も三百万人超

が犠牲になったあの戦争から七十年。この歴史を直視しながら世界の労働者との連帯を考えていきたい」と前置きした上で、「こうした犠牲の上に、主権を天皇から国民へ移し、権力を縛るものとして平和憲法が制定されたが、安倍政権は集団的自衛権の行使容認やアメリカ力での安保法制への公約など、戦前並りの政治を進めている。一方、銃剣とブルドーザーで土地を奪われた沖縄では『新たな基地は作らせない!』とオール沖縄の闘いが、避難者が十万人を超え甲狀腺がん患者が百人を超える福島では脱原発・核廃絶の運動が、橋下市長の反労働者的手法が断罪され続ける大阪では都構想反対・橋下退場の闘争が、さらに派遣法改悪や残業代ゼロ法案つくりに対しては労働者保護法制を守れるの運動が、それぞれ強まっている」と内外情勢の特徴を示し、結びとして「港と同は」の間、ブラック企業など「苦い」労働者の相談を受けて一定の成果を上げてきた。闘いなしに労働者の権利は守れないことは明らかだ」と強調、未組

織労働者の組織化の必要を改めて訴えました。
◆「歴史の直視を」NPO代表

「五月の空の下、闘う労働運動の息吹が溢れた「港地域メーデー」。上は入舟公園での集会、下は沿道にプラカードを示しながらみなと通を進む労働者の隊列



NPOみなどの玉置代表理事は「安倍首相が『取り戻す』と言っているのは戦前の日本。真に取り戻すべきは民主主義と平和の日本ではないか」
「四十年前の昨日、蟻のようなベトナム人民が象のようなアメリカを叩き出したベトナム戦争の教訓を思い起こそう」と歴史直視の重要性を示し、その上で「報道抑圧や都構想も結局は憲法改悪への露払い。平和憲法を守る運動を二層押し進めよう」と呼びかけました。
このあと、労働法制改悪や社会保障改悪、戦争体制への、言論抑圧、大阪都構想などの情

勢の中で、メーデーの歴史を受け継ぎ、国境を越え、労働者・市民の垣根を越え、官・民の壁を越えて「共に闘おう」と呼びかける「港地域メーデー宣言」が全員の手で採択されました。

◆「伝統を守るメーデー」に参加者
集会に参加した協同シャフト労働組合（淀川区の安光誠一委員長(四三〇)と岡田安昭組合員(五四)は「会社はユニオンショップ制で、百人の労働者全員が組合員です。職場では一本三本、どうもめる金属棒を研磨したり品質検査したりするので、安全には特に気を使います。春闘では主に労働条件の改善を、夏冬には主に賃上げを目指して運動しています」他のメーデー集会では「デモ行進をパレードと呼ぶなどお祭りのようになってしまっているので、メーデーの戦闘的伝統を一番まともに取り扱っているこの集会に毎年参加しています。デモ行進では特に労働法制や原発についてのシユプレに力を入れたいです」と話していました。
また医療関係の職場で働く五十代女性は「職場ではケアマネや鍼灸の仕事をしています。このメーデー集会には第一回から参加していま

すが、今回は戦争反対や格差是正と共に、特に都構想反対を訴えたいです。政令指定都市を手放し、それで吸い上げのお金を財界のために使おうという大きな狙いを知らせなければなりません」と話していました。

またNPOみなみ会館として参加した元労働者・江尻登さん(六七)＝南市岡在住＝は「都構想反対を訴えたい。湾岸区の意味が分からん。(政令市としての)金も権限も府に取られた上に、ただ広くなるだけ。良くなるはずがない」と話していました。

◆「都構想やめて」交通住民

集会后、参加者はみな交通を乗入「エモ」進行。アベノミクスによる生活破壊の事態や都構想の凶悪な狙いを交通住民や通行人に分かりやすく説きながら、「戦争する国」への声を訴す。「集団的目標権を認めないぞー」「閣議決定を撤回しろー」「大企業を優遇するなー」「原発を再稼働するなー」「秘密保護法を撤回しろー」「大阪をバラバラにするなー」「港区をなくすなー」などのシュプレッコールを連呼しました。

磯路千田(一歳女児)と信子待ちになりました。

「八時間労働制を闘い取ったメーデーの戦闘的伝統を守り抜く港地域メーデーには区外からも注目が集まり、多くの労働者が参加した



エモ進行を見ていた二十代女性は「エモを見るのは初めてです。育児など毎日の生活で頭が一杯ですが、原発や消費税や社会保障の問題は子供の将来にも関わっているのだから、とても気になるんです。労働者の皆さんは私たちの声を代弁してください。ありがとうございます」と話していました。

磯路千田の歩道でエモを見ていた七十代男性は「児童遊園の掃除などのボランティア活動をしています。老人福祉センターが減らされたり、色んな活動の補助金がなくなったり、橋

下市長になってからこんなことがない。都構想は絶対やめてほしい」と話していました。

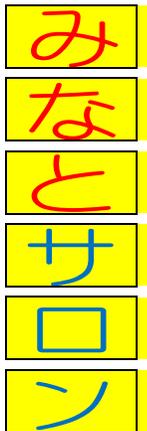
一方、磯路千田の停留所バスを待っていた六十代男性は「エモは毎年見ているけど(シュプレッコールには)賛成できない。平和は望んでるけど中国がやっついから安保法制も必要。都構想も、無駄がなくなるならやったらええかな」と話していました。

エモ進行の後、参加者は南市岡の田中機械構内で集会を持ち、それぞれの闘争を報告し合うと共に、交流と親睦を深めました。

◆労働相談を無料で受け付け

なお、港口回では、倒産・解雇・賃金未払い・条件切り下げ・サービス残業・労働災害・セワハラ・パワハラなど、労働に関する相談を無料・秘密厳守で随時受け付け、大阪労働者弁護団や関西労働者安全センターなど専門家グループとも連携して問題解決に当たっています。

問い合わせは港合同(南市岡二・六二一六、TEL:0583-4458、FAX:0583-4400)、メール soudaan@minato-godo.org。



スマホ ぼやき話

(池島・勝部 泰臣 八十一歳)

鶴田浩一の歌じゃないが、「古い奴だ」と笑い
でしょつが「スマホについてぼやけ」。

使いようではこれほどのスマホもはないと
思う。私は持たないが、友人が「夢中になって
時間を盗られるのがなァ」とさすがのセリフ。

図書館に本を返しに行く地下鉄車内。平日の
午前だから空いていた。前の座席の六人は全貴。
私の側は私を除いて全貴。入口の三人も立った
まま。つまり触ってないのは私だけ。仕方がな
いからカバンから本出して読むフリしてた。

新聞社を受験しようという女子大生が「新聞
は人前では読まない。偉いところと言われ
るから」「なまの図書館で読むか」って聞いて
なまの語のを、大新聞の女性記者が「まさか
に「なまの」で「喋る」記事を読まないと「こ
ろ」を言われないぞ」。

信州大学の学長が入学式でこう訓示したのも
今となっては的を射る。「大学をやるか、スマ
ホをやるか」。勉強不足で、この学長の他に
スマホの害を説いた知識人を知らない。

スマホの害を説いた知識人を知らない。
テレビ普及の昭和三十年代、大宅壮一とつ
辛口評論家が近い将来を見すえて「一億総白痴
化」と予言した。

昭和11トケタの私は小学校で怖い先生「頭
体、心は、使えば使えばいじこ」と教えられた。
「本を読めば想像力、創造力がつく」とも。映像
はほとんどがその場限り。思考する間がない。

大阪市老人クラブ連合会の機関紙『大老連』
に川柳を投稿した。

電車内 本を読む人 偉く見え
ボツになった(ト木ホ)。

予算チェックが区政への関心喚起に

(市国石町・七十年代 元公務員)

『住みたいまち』へ進むか? 総額九億、港
区予算を区民目線でチェック(四月号)一頁を
読んで。まず、区の予算について、国政・府
政・市政についての枠の中での非常に限られた分野

を扱っている。そして、その中で田端区長

らが防災や高齢者支援や地域活動に苦心の配分
をせむている。よびがよわかりました。その上
で、貴紙が辛口「コメント」されている「英会話
への要する配分」については、今のグローバ
ル化の中ではこうなってしまうのも仕方がない
ように思いましたが、一方で、そういう流れに
安易に流されるのも公的機関の在り方としてど
うかという疑問もわきました。英会話に慣れ親
しんでマイナスというのではなごしょつが、
やはり貴紙が書かれているように、日本の子供
にはまず日本語できっちり物事を考えられる力
こそが求められると思うからです。良し悪しの
判断は難しいところですが、そこについて細かいと
ころにも目を配られた貴紙のチェックそのもの
が、区政に対する区民への関心喚起と問題提起
になっていくように思われます。『港新聞の発行
目的(本紙最終頁の奥付に掲載=編集部)』に
着目して読んで始めた私たちが夫婦ですが、この記
事からは特に「真実を伝え、ともに考え、提案
し」を貴紙がしているよびが感じられました。

「福島の回収問題」を考えた

（磯路・陸地 照子）

東日本大震災で福島原発事故から四年以上が経ち、関連記事もだんだん少なくなっている気がしていたので、「大阪の地で福島と繋がるとは何が？」という樋口曜さんの提言（四月五日）を興味深く読みました。中でも、二百頭もの牛を「殺処分せず飼育続ける」市沢さんの話には胸を打たれました。国や大企業を相手に何かを言いつくすには大変だと思います。すべてに結果が出ません。それでも行動し続ける市沢さんの強い信念、牛に対する愛情には本当に頭が下がります。国は「福島の回収問題」の口実ばかりですが、一体どこまで回収問題の回収問題の回収問題。このような現地からの生々しい報告に触れると、疑問と怒りのを御ません。

痛快だった「住民投票」批判

（三先・六十代 商店主）

ごさか「田中さんごさか」欄を拝読しております。田中さんの「田中神の意義」が何か？ 郵政権住民投票は無駄の最高」として小西

↑辻悦子さん(市岡元町)からの絵手紙



正敏さんの提言（十一頁）が、時宜を得た適切な内容だと感じました。特に住民投票が公明党の不可解な方針転換に下りて実施に至った過程を「市民不在の闇取り引き」「大阪の民主主義は死んだ」と断罪しておられるところが痛快でした。同時に、実施が決まったことについては「うしろもなぐ」これを機会に「本当に大阪を元気にする道は何かをみんなで考えよう」と呼びかけておられました。しかし、怒りだけでは足りない。市民としての良識と健全な（建設性）を感じられました。かといって私自身ももちろん郵政権への幻想はなくなりかま持ちではない、投票では反対票を投じるつもりです。

人間性疑った橋下市長の態度

（南田岡・六十代 女性）

四月十七日に港区民センターで行なわれた「特別区設置協定書」についての住民説明会に夫と参加しました。開会前に満席になり、会場には熱気というより、何やら異様な空気が流れていました。大阪市の担当者は「特別区になっても住民サービスは変わらない」と説明をせられ、橋下市長は「重行政の無駄をなくしたい」「東京のように大阪を発展させたい」となご自分の気持ちを話されました。質疑応答では港新聞さんが立って、四つの質問をされ、夫はきり「ひたひた」といってしまいました。私は正直なところ、きり判断がばいぶのが、よく分かりませんが、市長の説明があまりにも長くて質問時間がほとんどなくなりました。「これは住民のための説明会なの...」と違和感を覚えました。参加者からも抗議の声が上がっていましたが、市長は「僕の説明会だ」と譲りませんでした。隣の田端区長を、部下だからと「タバタ」「タバタ」と何度も呼びつけておられたのも、田端区長は年上なの

に…」と気になりました。そんなことを実際に見て、「橋下氏の顔をみるだけで嫌な気持ちになる」と近所の人が言っていたのがわかる気がしました。政治家は政策も大事だけれど人間性を疑われては、どんなにいいことを言っても受け入れられないのではないのでしょうか。

「大阪をええ良ければ」感じた

港の加勢大周 かせたいしゅう 三十年代

僕は「都構想」住民説明会（四月二十五日、ホテル大阪ベイタワー）に出席しました。そこで橋下市長は「都構想が実現すれば、今よりもっと多くの金物、優秀な人材が大阪に集まり、その結果として大阪の経済がさらに発展するのは間違いない」とこめこめ強調しました。が、これは裏を返せば大阪周辺地域の過疎化、経済衰退につながるものとも思えます。都構想や市長の言葉から「大阪をええ良ければ他」の地域はあついてもいいんだ」といつ姿勢が非常に強く感じられます。つまり、友愛、共生、助け合いといった、人としての基本精神が全く欠けていないかという思いが。

市議員は市民のために働く

田中・小西正敏

大阪市市議員の選挙が四月十一日に執行され、それぞれ新しい市議員が決まり、一カ月以上が経ちつつあります。その間、当選された港区選出の議員は何をやっていたのでしょうか。

大阪維新の会は大阪都構想実現のために街頭宣伝車などで投票運動をしている姿をしばしば目にします。一方、都構想に反対する政党は、区内で見る限り、大変静かです。私が知らないだけなのではないでしょうか。五月十七日の住民投票に向けて様々な賛成・反対の運動を展開するのは民主主義にとって大変重要ですが、市主催の住民説明会が二十九回実施されましたが、市議員は出席もせず、出席しても発言していないのはどうしたことでしょうか。本日に職責を全うしているのか、疑問に感じます。市議員は市民が選んだ公僕であり、様々な問題で市民のために働くのが仕事です。その当然の仕事をしていない市議員は即刻やめるべきです。

それについては許せないのは公明党の行動で

す。特別区協定書が昨年十月の市会・府会へ否決されたままであれば、住民投票でどうしようが無駄な過程を経ずに済んだと思いついて、返す返すも残念でなりません。

障害年金もれ周知へじわり前進

田中・西村均 ひと

「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にズレがあるため、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数にのぼることが問題となっており、そんな人たちにに向けて貴紙が『あれこれガイド』(巻末は十七頁)編集部で「心当たりある人は相談を」と呼びかけられています。

私も一市民として数年前から何度か港区役所保健福祉課に「周知のリーフレットを置いてほしい」と口頭や文書で申し入れてきました。が、昨年十月時点では「こちらでは各個人の年金受給資格の有無が分からない。マンパワーでもできれば別だが、今の状態が手帳と年金の等級の違いを表にしたります」と、年金受給資格のない人が勘違いして混乱する恐れがある」との回

「みっちゃんガイド」楽しみ

(中商・四十代 会社員)

「みっちゃん」の港区なるほど歴史ガイド「大保の大川浚」(四十四頁)を読んで。「大変やけど、いつちよやったるか」と超ビッグイベントに挑戦した昔の港区の人たちの心意気が、楽しい文章で伝わってきました。天保山へはあまり行くこともありませんでしたが、歴史的な大工事の形見みたいなものですから、近いうちに一度訪れ、じっくり昔を憶んでみたいと思いました。また「みっちゃん」というのは男なのか女なのか、何歳くらいなのか(笑)ーそんなことも興味がありました。

万感の乗船、私も胸熱く

(港傭・六十代 自営業)

自分が老人の仲間に入りつつあるので、高齢者関連の記事が目が留まりました。四十四頁は松原麻子さんの「平和のための戦争体験語り」(四十四頁)が印象に残りました。終戦から一年以上も満洲で苦勞を重ねたのち、ふつと

←読者の写真。築港の一戸弘道さんが四月に港区役所六階男子トイレから撮影した庁舎南側テラスの太陽光発電パネル。市の省エネ節電対策の一環として昨年十一月二十九日から工事、この三月二十三日から稼働。電力は庁舎エレベーターなどに使われ経費節減に寄与。発電量は一階に表示(一日平均約五〇KWh)



本に帰るものになった喜びが痛いほど伝わって来ました。特に「口鼻から駆逐艦」(四十四頁)の場面には、私も同じように胸が熱くなりました。「軍楽隊の人たちが、まるで神の使者

のように見えました」と振り返っておられますがまさに実感でしょう。そんなことも含めてやはり戦争といつのは悲劇しかもたらさないものであり、絶対に繰り返してはならないと改めて思った次第です。次回で終わりがもしれません。辛い体験を語って下さった九十四歳の杉原さんに心から感謝します。

「あそやけ」に日本のあり方を考えた

(三先・ライター)

いつも「あそやけ」から読みます。四十四頁は『佐渡おけさ』の歌詞に託して、憲法、基地、カジノなど日本のアメリカ追随ぶりがこれでもかと暴かれました。そしてその中で、代を継いで葬せられた漱石、品孫ら賢人たちの救国・憂国の叫びの重なり。そこに最後は、大阪の焦点である「都構想」に照準を定め、再び『佐渡おけさ』から「三味や太鼓」をたたくような浅い思索のわじやない「締めゆるる展開。いつものなからの筆運びに改めて感心させられました。また何より、そつた文章を通じて日本のあり方を考えさせられました。

筆記具に「ご苦労さま」

天満宮で筆供養祭・献茶祭和やかに



→ 使い古した筆記具に感謝して催された「筆供養祭」四月十八日、三先の天満宮で（写真は筆記具を神前に納め、二拍手する参列者）

使い古した筆記具に「ご苦労さま」ありがとう

「ご感謝する」「筆供養祭」などの伝統行事が四月十八日午後、三先の天満宮（村岡康生寺司）で催され、数十人が参加しました。

◆ 厳粛に、和やかに

このうち中心行事である「筆供養祭」「献茶祭」では、地元の人たちが持参した筆記具が供養され、書道・学業・習い事などの上達が祈願される。共に、薄茶が神前に奉納されました。祭式に則った厳かな雰囲気印象的でした。

このあと境内には「お茶席」が設けられ、参加者は、青葉に移りゆく境内の桜や、二先地域活動協議会・子供部会の呼びかけで三先の子供たちが手形で鱗を描いた鯉幟二十数匹が泳ぶのを仰ぎながら、初穂料（二百円）でお菓子とお茶を楽しみました。晴天下の爽やかな空気の中心、温かく和やかな雰囲気が印象的でした。

◆ 道員への愛着と感謝よび起す

筆供養に参列した廣田高子さん（八二）＝池島一丁目在住＝は「長らくこの神社の氏子ですが、筆供養に参加したのは初めて。ボールペンやシヤープペンシル六七本を納めました。使い捨

「お喋り弾むお茶席」と境内に泳ぐ鯉のぼり



ての時代ですが、道員への愛着と感謝を呼び起す。これからは、使い終わった筆記具はこの日のために残しておいて思えます」と話していました。

◆ 「境内に鯉幟を」とよびかけ

なお同宮では祭神・菅原道真公の神徳に当って毎年初に「書き初め」を催し、その際に用いた筆の供養を主な目的に、この祭礼を継続。近年は筆のほか、鉛筆や万年筆、ボールペン、シヤープペンシルなども受け入れています。

また鯉幟は五月末まで掲揚し、来年以降も数を増やしながら掲揚を予定。「家庭に眠っている鯉幟もOKです」と持参を呼びかけています。

☎ 六五七一・〇五二 天満宮。

お釈迦様の誕生祝い

西明寺などで「花まつり」にぎわう



→様々な催しに子供たちの歓声が溢れた市岡・西明寺の「花まつり」。写真は釈迦像に甘茶を注いだあと合掌する母子。四月十一日午後

「お釈迦様の誕生日（四月八日）を祝いましょう」と毎春に催される仏教行事「花まつり」が今年も区内各地の寺院で行なわれました。このうち市岡の紫雲山西明寺（浄土真宗本願寺派）西本願寺では四月十一日の午後、親子連れなど数十人が様々な催しを楽しみました。

◆紙芝居や沖縄バンドも登場

参加者はボランティア女性らの導きで釈迦像に甘茶を注ぎかけ、合掌。そのあと紙コップに注がれた甘茶を口にし、そのほんのりとした不思議な甘さにおいしいね「など」顔を見合わせていました。「ショータイム」では熊本官雄住職（五二）が子供らの健やかな成長を願って優しい仏教講話を披露。ボランティアグループ「千のかぜ」は『大きくなあれ』など幼児向けの愉快な紙芝居。ルーミアア女性マリヤさんと大正区の居酒屋店主・中田さんのバンド「チバリヨ」は二線の伴奏に参加者の手拍子や指笛も得て『安里屋ユンタ』など沖縄ソングを熱唱。その他、ゆるキャラパフオーマンズや仮面ライダーショーもあり、最後はお土産代わりの「お菓子のつかみどり」が子供たちの心をつかみました。

←幼児から歓声が上がった「千のかぜ」の紙芝居（上）と、沖縄民謡を演奏する「チバリヨ」（下）



なおこの日の書銭やカンパは全て「東日本大震災復興支援募金」に充てられました。

◆布教熱と地域愛を感じる

一歳半の男児を連れて初めて参加した女性（筑港）は「家には仏壇もないし、熱心に手を合わせる方でもありませんが、花まつりは、お釈迦様の誕生日を祝うという形で、日本人の心に深く根付いているこの教に改めて触れることができるとても意義ある催しだと思いました。それに、このお寺では子供たちが楽しみながら仏教を身近に感じることができるよう様々な工夫が凝らされ、布教への熱意と地域への愛情を感じます」と話していました。

清く正しく逞しく

港区民剣道大会、熱戦の中に礼節



→清く正しく逞しい雰囲気印象的だった港区民剣道大会 四月二六日、港スポーツセンター
—(写真は開会式での淡路谷会長の開会宣言)

「心身ともに健やかな青少年の育成を」と毎年開かれている「港区民剣道大会」が今年も四月二十八日(日)、港スポーツセンター(田中三丁目)で開催され、参加十八団体の選手と関係者合わせて二百人以上で賑わいました。五十二回目。港区体育厚生協会(秋野久美子会長)が主催、港剣友会淡路谷松之助(会長)が主管、港区役所(田端尚伸(区長)が協賛。

◆「人間形成をめざす武道」(区長)

開会式では淡路谷会長が開会を宣言。田端区長が「剣道は体を鍛え技を磨くと共に人格形成も目指す素晴らしい武道。日頃の練習での縦の繋がり、大会での横の繋がりを通じて健全な人間関係と地域への貢献している。区役所も防災・防犯では各分野の基本計画(横断と各地域の行動計画)縦断が交わる安全ネットづくりを目指している。安全・健全な地域づくりの力を合わせよう」と、来賓を代表して西徳人(市会議員)が「剣道は礼に始まり礼に終わる。礼節を重んじることで他者への思いやりも生まれる。また『稽古』には古を考へる、『磨く』には怠らず続けるこの意味があるが、そうした積み

重ねが人間形成や大会の充実に繋がる」とそれぞれ参加者を激励。選手を代表して辻本明義(四段)弁天剣友会が「ルールに則り、正々堂々と戦う」と沈着、壮快に宣誓しました。

◆緊迫の模範稽古

競技冒頭は恒例の演武(模範稽古)。井上晃一(七段)港剣友会立会のもと、黒木保(五段)弁天剣友会(下段者)五人が、浜田満(七段)三先剣友会(上段者)五人に挑む形で「キエー」「ウオー」などの掛け声も力強く、緊迫の攻防が展開され、盛大な拍手が送られました。このあと昼休みを挟んで夕方まで各競技が手際よく進行。閉会式では成績発表や表彰が行なわれ、山本重樹(教士七段)大阪府剣道連盟理事が講評を述べました。

◆「最高の生涯スポーツ」と27年剣士

開会式のと選手に剣道への思いを託しました。宣誓の大役を果たし、個人戦四十五歳以上、団体戦区長杯、団体戦國長杯を控えた辻本四段(五十二歳)は次のように話していました。

「剣道を始めたのは小学四年。岡山県真庭市の小さな学校で、クラブといえば野球と剣道し



←沈着・壮快に宣誓する辻本四段⑤(左は田端区長と、緊迫の模範稽古⑦)立会者は井上七段

道を楽しむことが第一の臨みます」。

◆「自分の内面がく場」と青年剣士

団体戦区長杯と団体戦國長杯を控えた高橋慎二段(市岡高校OB会、二十八歳)は次のように話していました。

「この大会は一回目の出場で、今口はどちらかの団体戦での優勝を目指しています。剣道は小学四年から大学一回生まで続け、一十関連連の会社に勤めて中断していましたが、去年一月、運動不足解消と防具活用のため再開しました。今は楽しんで感じず、剣道の楽しさがよみがえり、共通の趣味を持つ仲間同士の繋がりを楽しんでいます。剣道の魅力の一つは駆け引

◆「気がさらに強くなった」と女性剣士

個人戦女子を控えた西崎佳子四段(三先剣友会、五十八歳)は次のように話していました。

「高校時代に少しかじったから三十年のブランクがありました。四十を過ぎた頃、主人の稽古に付いて行く形で再開しました。眠っていた防具をもったいなさ(笑)と思ったこともきっかけです。剣道は年齢を重ねながらも進歩できるところが一番の魅力。人を叩いて褒められるストレス発散になり、本当に楽しいです。もちろん、言われた事が中々できなくて、返して技を

かなかったので仕方なく入ったという感じでしたが高校一年まで続けました。約三十年のブランクを経て四十七歳の頃、整高院という仕事の手前・健康のために自らも何かやるの必要を感じ、また年齢を重ねても続けられるスポーツは何かを考え、やはり防具をこのまま眠らせるのは忍びない(笑)と、ついにもあり、再開した訳です。以後八年間、スキーを楽しむ(冬場)十二ヶ月を除いて続けていますが、その中で剣道の魅力を再認識しています。それは生涯スポーツとして、年齢を重ねても自分のペースで続けられること、少しずつでも努力を積み重ねればそれなりの成果を得られることです。そんな魅力を知った上で、励み稽古には、暑も寒もなにか苦いんだ子供時代と違って、なにかを感じず、逆に好きなことに打ち込む者としての交流を満喫しています。剣道は礼節を重んじる武道ですが、これからは、縦の関係を生かしながら、こつとした大会や積極的な出場による横の関係の広がりや、皆で一緒に追求していかたいと考えています。個人戦四十五歳以上では連続優勝を目標していますが、結果ははたかわらず、剣

頭で分かっているつもりでも体がついていかない、悪い癖がなかなか抜けないーなどいんげいごもありません。剣道を続けたことで、大きな声がより大きく、強かった気持ちがより強くなった笑と言われます。得意技といっしょにはあきらめませんが、今はメン一本。この大会には五く六回出て最高成績は最後まで粘れたこと。今日は一分持てばいいかな笑。これからも心身の健康のために続けていきたいと思います。」

◆「剣道イメージした音楽を」と少年剣士

個人戦中学生を終えた田中浩太選手(港南中剣道部、一年生)は次のように話していました。

「剣道は中学に入ってから、歳をとっても続けられ、また、いんげいごの身の守りになると思えて始めました。先輩の姿に憧れたことも理由の一つです。腕や足を使う練習のしんどさや、教わった技をなかなか自分のものにできない苦しみはありますが、それを乗り越え、試合などで『ファイトー』などいんげいごをかけてもらった時は、剣道をやっていて本当に良かったと思います。得意技はメン。剣道の良いところは、人から『格好い』『礼儀止』『なまじい感』

←礼儀正しく爽やかに行なわれた試合風景。上は個人戦中学生の部、下は個人戦小学生の部



もらせること。将来は音楽家になり、剣道をイメージした音楽が作れたらいいなと思っています。そのためにも剣道は高校でも続け、その後ぜひいんげいごです。」

◆ 日本民族の品格を示す

会場への出入りでは一礼する、試合後は勝っても負けても互いの健闘を称えらう、模範稽古の後で下段者が上段者に礼を言う、本紙取材にも真摯に答えるーなど、この大会で選手たちが見せた一挙一動の凛々しさ、爽やかさは、礼節を尊ぶ日本民族の品格がなお健在なことを示し、清々しい気分をさせてくれました。

◆ 黒木保さん、朝潮剣友会云々優勝

なお、熱戦を制した上位入賞団体 選手は次の通り(敬称略)。

- ▽個人戦小学生(三十四人) ①佐々野遥(中泉尾少年剣道クラブ) ②服部大輔(弁天剣友会少年剣道部) ③佐々木真(田中少年剣道部)
- ▽森颯太(中泉尾少年剣道クラブ)

- ▽個人戦中学生(四十八人) ①松本亮多郎(弁天剣友会少年剣道部) ②高島吉仁(白水剣友会) ③林 準一郎(墨江丘中学校) ④山内椋生(白水剣友会)

- ▽個人戦女子(十人) ①黒田紗衣(西区体育厚生協会) ②橋本弘美(新金岡親子剣道クラブ)
- ③保科涼(新金岡親子剣道クラブ) ④古木みちる(新金岡親子剣道クラブ)

- ▽個人戦四十五歳以上(二十四人) ①黒木保(弁天剣友会少年剣道部) ②池野優司(大阪税関) ③辻本明義(弁天剣友会少年剣道部) ④又六達司(日本パナユース株)

- ▽団体戦区長杯(十九チーム) ①港剣友会A
- ②新金岡親子剣道クラブB ③弁天剣友会少年剣道部A ④団体戦区長杯(八チーム) ①朝潮剣友会 ②港剣友会 ③新金岡親子剣道クラブ

エイ革細工に注目

中央公会堂で 淡路谷さん 独創の技アピール



→「ルナロッサ ヨッピー」ブランドのエイ革製品を説明する淡路谷さん⑥ 〓四月二十四日、大阪市中央公会堂のファッションショーで

世界ブランドめざして起業した港区の若手職人が着実に階段を駆け上がっています。四月二十四日に大阪市中央公会堂で開かれた「クリエイタスマガジン「ロレクション」と題するファッションショー」(POM主催)に、市岡の淡路谷佳幸さんが自作のエイ革製品などを出品、繊細・緻密で独創的な技に注目が集まりました。

同「ロレクション」は毎年この時期に開かれる関西屈指の芸術イベントで、あらゆる分野の芸術家が集う。ファッションを中心に宝石・靴・眼鏡など多数のブランドが多彩なブースを展開。淡路谷さんはその一画で、高級革細工店「ルナロッサ ヨッピー」ブランドをアピールしました。

◆ 財布・ベルト・バッグなど

淡路谷さんは、エイ革を中心に素材とする財布・名刺入れ・ブックケース・煙草ケース・ベルト・バッグ・耳飾り・首飾り・腕輪・ブローチなどを手に、実演や販売に忙しく動いていました。特に来場者の関心を惹いたのはエイ革の特徴や工程。

①原皮は非常に硬い(歯や爪でも傷つきにくい)②それを皮に鞣す(「エイ革」の状態になる)③さらに研摩や瑪瑙による仕上げで



↑注目を集めたエイ革の財布④や宝飾品⑤

滑りかになる④染料で着けた色は使えばほどにくすんで味わいを増すーなどの説明に驚きの声があがり、さっそく買い求める人もいました。

◆ 目立たない所にも手を抜かない

淡路谷さんは一九八九年磯路生まれ。磯路小・市岡中から高校、専門学校を経て二〇一〇年創業。家業(燃料販売業)手伝いや趣味の剣道にも真摯に打ち込みながら奮闘。一四年あべのハルカス催事出展。一五年ファッション誌GRITTE R掲載。デザインでは同じパターンを避け、常に新しいものを、加えては「目立たない所にも手を抜かない」をモットーに「日本発の世界ブランド」をめざしています。ホームページは「yopoi」フェイスブックは「ルナロッサ ヨッピー」で検索。オンラインショップはyopoi-stories.jp

地域パワー炸裂！

弁天まつり、カラオケなど楽しむ



→ 地域のパワーが溢れた「弁天まつり」(写真は美しいハーモニーで『たんぼぼ』などを聴かせたラッパカント) 〓 四月二十九日、オーク広場

住民参加型の地域イベント「弁天まつり」が四月二十九日午後、弁天町オーク広場(弁天二丁目)で開催され、多くの区民で賑わいました。弁天連合振興町会(上田哲夫会長)とオーク200が毎年この時期に共催し、二十一回目。

♪ カラオケは佐藤幸羅さん優勝

毎年人気のメインイベント「カラオケ大会」は午後一時ごろスタート。各町会から推挙された十八人が次々とマイクを握りました。弁天一なら港区一」の声もあるハイレベルの大会とあって、いずれもらぬ歌唱の連続に、会場から拍手喝采が絶えませんでした。

予想通りの大混戦となりましたが、上田会長ら五人による激しい審査の結果、『雨のヨコハマ』(五木ひろし)を情感ももつ口級の表現力で歌い上げ、会場のどよめきを誘った佐藤幸羅さん(弁天五丁目東町会)が獲得、満場の祝福を浴びました。

カラオケでは「その他、しっとりとした女の哀愁を込めて『港町情話』(中村美律子)を歌い込んだ町田美鈴さん(弁天五丁目東町会)、張りのある声で落ち着いた『にじいろ』(絢香)を聴かせた

「しっとり哀愁込めて『港町情話』を歌い込んだ町田美鈴さん(上)と、張りのある声で落ち着いた『にじいろ』を聴かせた三井愛実さん(下)



三井愛実さん(クロスタワー町会)、『風の湯音頭』(松浦ゆみ)の可愛げな歌いっぷりが手拍子を誘った吉田和美さん(弁天五丁目西町会)、温かなハスキーボイスで泣くように『桜貝』(五木ひろし)を歌い込んだ森川泰一さん(弁天五丁目東町会)、語りかけるような誠実な雰囲気『町の灯り』(堺正章)が好感を呼んだ羽東利之さん(弁天五丁目町会)、透明感のある声質と流れるような歌唱で『夢いっかんか』(やしきたかじん)を聴かせた村東正博さん、豊かな声量と抜群のリズム感で『涙のラブバラード』(松浦ゆみ)を歌い上げた児玉けい子さん(弁天四丁目南町会)などが会場の注目を集めていました。

←『嵐の湯音頭』の可愛げな歌いっぷりが手拍子を誘った吉田和美さん⑤と、語りかけ泣くように『桜貝』を歌い込んだ森川泰二さん⑥



♪コーラスやダンスも

カラオケの前には地域住民によるコーラスやダンスが登場。弁天小学校生涯学習ルームコーラスグループ「弁天サマーズ」、同クラブダンスグループ「ブルメリア」、地元のスガグループ「ファンキー」など例年の顔ぶれに混じって、初出演のクラシカルバンド「カオナカシン」の見事な演奏も注目を集めました。

このうち、池島地域を中心に活動する「コーラスグループ」ミルキーウェイ&スターダスターズは、歌を心から楽しむにやかな表情と温かなハーモニーで『野に咲く花のように』『もしもピアノが弾けたなら』『時代』など四曲を、港

高校の同窓会館で練習を重ねるコーラスグループ「ピアノカント」は、歌の世界に集中した気品ある表情と美しいハーモニーで『たんぽぽ』『見上げてくらん夜の星を』『翼をください』など四曲を、それぞれ披露し、大きな拍手と声援を浴びていました。

♪松浦ゆみさんライブやビンゴも

カラオケ大会の後には磯路在住の歌手・松浦ゆみさんのミニライブがあり、プロならではのパワフルで歌心（うたこころ）に入る歌唱が会場を席巻（せきわん）。最後は全員参加のビンゴゲームで大きな盛り上がり。のうちに午後五時ごろお開きとなりました。全体を通じて日頃の弁天住民のパワーが一気に



→誠実な雰囲気のある『町の灯り』が好感を呼んだ羽東利之さん⑦と、透明感のある歌声で『夢いらんかね』を聴かせた村東正博さん⑧

←抜群のリズム感で『涙のラブバラード』を歌い上げた児玉けい子さん⑨と、温かなハーモニーで『野に咲く花のように』などを聴かせたミルキーウェイ&スターダスターズ⑩



♪晴れのカラオケ入賞者
に花開いたよつな溢れる洋溢（えいせい）が印象的でした。

♪ 晴れのカラオケ入賞者
次の通り（敬称略、カッコ内は町会名）。

- 準優勝⇨上田淑子（弁天一丁目）『津軽のふるさと』⇨連合会長賞⇨渡部武志（弁天一丁目東）『北の漁場』⇨女性部長賞⇨児玉けい子（弁天四丁目南）『涙のラブバラード』⇨店舗会賞⇨村東正博（クロスタワー）『夢いらんかね』⇨オーケ200賞⇨岡島恵美子（弁天一丁目西）『酒の河』⇨松浦ゆみ賞⇨山重美（弁天五丁目東）『霧子のタンゴ』

個性溶け合いほっこり

ギャラリーはたなかで 絵画五人展



→ほっこりした雰囲気が漂った五人展。左から岡田よしたかさん、笹岡茂彦さん、鑑賞の女性、畠中信子館主、ギャラリーはたなかで

個性的な作品が一つに溶け合い、ほっこりした空気が漂いました。みな通(港区役所前)の画廊「ギャラリーはたなか」館主・畠中信子(はたなかのぶこ)さん(四十六)と十八日、同ギャラリーなじみの画家五人が『絵画数寄五人衆展』と題するグループ展を催し、好評を博しました。

● 不思議で温かな笹岡茂彦作品

このうち最年長で、古いホスター風の懐かしい画調で知られる笹岡茂彦さん(ふさおか)は、地球の古生代最古の歴史の変遷を、小さな画用紙一枚一枚にペンとインクによる極細の線と色鉛筆による淡い彩色で夢想的に描いた「カンブリア年代記」(五十二枚組)、さらに人物や風景を麻布にアクリル絵具で幻想的に描いた『夢をつかまえて』『大航海』『ホメロスの麗』など四点を出品。このうち『夢をつかまえて』は、女性が花より小さい不思議な光景ながら、人間の存在そのものを愛おしむようなどこか懐かしく温かな雰囲気にじみ出ていました。

● 愉快で美味しい岡田よしたか作品

食べ物を中心に楽しめた楽しい絵本の作家でもあるモンキー岡田よしたかさん(五十九)は、子供

→笹岡茂彦さんの幻想的なアクリル画『夢をつかまえて』(上)と、モンキー岡田よしたかさんの愉快なアクリル画『団らん』(下)



向け物語のクライマックス場面を油絵具でユーモラスに描いた『サーカスの人間ジェット機シヨ』に乱入(二連作)や、ユーモラスに擬人化された様々な食べ物姿をアクリル絵具で散りばめるように描いた『ついにビッグバン直後の宇宙をつらえた』『団らん』など二点を出品。このうち『団らん』は、絵本にも登場した鯛焼きと昆布巻きと握り飯が昔ながらの円いお膳を囲んで何やら喋り合う場面が愉快で、しかもどれも食べたくなる立体感を持っていました。

● ユーモラスで懐かしいウジロー作品

市内でデザイン関連の仕事をしている坂井川ウジローさん(五十七)は、今昔の商品や風俗や流

行を題材に、アクリル絵具を水彩風に使い、郷愁誘つ漫画タッチでパロディ風に描いた『オハヨー』『時節柄』『サカサンパス』『南園ハイーン』『海苔べんだら(井出)』『またも牛丼』『まつたけ(松茸)』『カナザハ(金沢)』など十四点を出品。このうち『南園ハイーン』は、本人の分身と思われる猫が色鮮やかなパイナップルの切り美に肘を突いている言伝チラシ風の構図が、思わず笑いの込み上げぬユーモアと懐かしさを感じた。

● 心が癒やれる温かみのある作品

モンキー岡田よしたかさんの妻である岡田か



→坂井ユウジローさんのチラシ風のアクリル画

『南園ハイーン』⑤と、岡田かよさんの心落ち着く水彩画『座ってこつちを見ている人』⑥

よさん(四三)は「いろいろな関係、いろいろな想い、その瞬間の瞬間、日常の中から出てきた絵」とこの言葉を添え、母子を思わせる架空の生き物の様々な姿を、水彩絵具にクレヨンやクレパスを重ねるなど独特の技法を駆使し、いわさちひろやムックを思わせるタッチで描いた『親子』『楽しいないしよ話』『じつと見つめる目』『桜の中で』『髪の中の夢』『しゃつとつかわれて横になる』など十二点を出品。このうち『座ってこつちを見ている人』は、暗い背景の中で母子が安心してきた穏やかな表情で「ちづら」を写している構図が親子の情愛や一体感を感じさせ、心が落ち着くよかったです。

● 温かく癒やれる上月初み作品

奈良県に工房を持つ上月初みみささん(四二)は、花や聖人をモチーフに、艶を落としたマトトな仕上がり特徴のテンペラ絵具を駆使し、イコン(聖画像)を思わせる温かみも重厚なタッチで、自作の立体的な小額にガラスをはめ込んだ「ガラス絵」として、『花畑の絵』『夜の花

電車』『菜の花』『観音様の箱』『蓮と観音様の箱』『マリアとキリストの箱』『花』『金魚水槽

↑上月初みみさんの癒しのガラス絵『マリアとキリストの箱』⑦と『蓮と観音様の箱』⑧



なび九点を出品。このうち『マリアとキリストの箱』は、ふっくらとした聖母マリアが幼いキリストを抱く構図が安心と温もりを感じさせ、観る者の心を癒してくれました。

● 「坂井さんがんばわ」と相談

なお、この五人は日頃から交流を重ね、刺激し合う芸術仲間で、それぞれが個展や一人展などを重ねてきましたが、今回「五人展」という形をとったのは、仲間の一人、坂井ユウジローさんが最近体調を崩したのを知った他の四人が「物心画面で彼を励まして」と相談したからでした。そんな友情の温かさも加わり、会場には個性的な絵画の数々が奏でるアンサンブルと共に、何とも言葉えないほんわかした雰囲気がか漂っていました。

書の奥深さに触れる

夕凧の書家 井後さん作品展



→書の奥深さを感じさせてくれた「井後雅堂展」。
大学卒業時の大作『二十歳図』の前で作者・
井後雅堂さん(右)と画廊主・川島恵美子さん

十五にして学を志し、三十にして立つ。五月初旬にみなと通の画廊、ガレリア・アリバリア(三先)で開かれた「井後雅堂展」十五志学三十而立』には大勢の人々が訪れ、書や篆刻の作品に見入りました。

●十五年の歩みを振り返り

出展したのは夕凧在住の小学教師・井後雅堂さん(雅堂は雅言)。小学一年から港区の女性書家・末葉さん主宰の書道教室に通い、高校以後は篆刻と書画の大家・尾崎蒼石さん(築港)に師事して本格的に書や篆刻を研鑽。現在、日本篆刻家協会評議員、日本書三院一科審査員などとして活躍。全関西美術展には無鑑査出品。今回、書を志して十五年が経過し、就職・結婚などを経て区切りの歳を迎えたことから、この間の歩みを振り返り、今後へのステップとするため個展を思い立ったというエピソードでした。

●篆書・草書・行書を自在アレンジ

会場には書・千数点が高校時代の作品から時代順に、また書画の印章としてだけでなくそれぞれ自立した芸術である篆刻の印判数点も展示。書では、篆書を中心に草書や行書をアレンジし、

「篆刻」十五志学、三十而立(右)と篆書「胡福」(左)



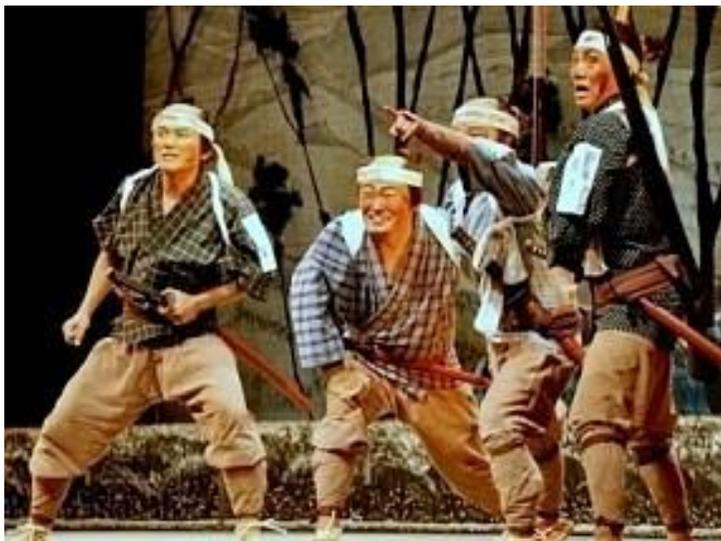
また新旧の墨を使い分けるなどして、「気」主敬「思索」「福寿」「五風十雨」など、主に漢詩からとった語の意味にふさわしい自在な書風が印象的。篆刻では、自然の移ろいを表現して四年前の口展で入選したという「鳥散餘花落」の味わいある刻印などが注目を集めていました。

●書の世界を次世代へ

井後さんは作品を案内しながら「書と篆刻も、限られたスペースにバランスを考えながら字の意味や思いを込めることに喜びと難しさがあり、またその時々季節・天候や気分が字や彫りに表われることに怖さと楽しさがあります。この展示を機にこうして世界を地域へ次世代へ伝え広げていけたら」と話していました。

大衆こそ歴史の原動力！

感動呼んだ『動けば雷電の如く』



→「大衆こそ歴史の原動力！」と感動を呼んだ『動けば雷電の如く』の一場面。「これが本物の維新革命」の声が溢れた。四月、大阪市内で

「大衆こそ歴史の原動力やー」。下関を拠点に庶民の立場に立った演劇を全国展開する劇団は、このままが四月、安政の開国に抗して民族独立を遂げた人々を描いた『動けば雷電の如く』高杉晋作と明治維新革命』を市内の一万所で大演。港区民ら五百人が大きな感動を受けました。

◆ 欧米列強の圧力に屈せず

— 激動の幕末。日本の植民地化を狙う欧米列強に屈服する江戸幕府。幕府の長州征伐にひるむ長州藩論派。その中で高杉晋作と救国の志ある農民・商人・藩士らは身分を越えて奇兵隊を結成。世直して民族独立を掲げて七十名で決起。俗論派を破り藩論を統一した長州藩は、四方面から十数万で襲いかかる幕府軍を四十余りで迎え、撃破。遂に明治の夜明けを開いた。

日々の生活に窮しながらもその元凶である幕府を倒すためなら「命も惜しくない」と怒りを滾らせる農民、商いのためにも真の開国を後押しする商人、そして彼らを一大勢力へとまとめあげた悪作の火の玉のような行動力。アベノミクスや都構想なく、国を売るかのような今の政治情勢の中、私たちに「いかに生きるべきか」を

← 劇中では高杉ら下級武士と共に、農民の怒り

①や進歩的商人の援助②にも光が当てられた



問う迫力ある舞台が印象的でした。また明確な発声や力強い動き、立体的な大小道具や背景画からは、豊富な稽古や準備が感じられました。

◆ 「今の日本や大阪と重なる」と感想

終演後の座談会やアンケートでは「個人よりの国の根本的利益をききえて決起した姿に感動した」「これこそ本物の維新だと思った」「描かれた幕末が今の日本や大阪と重なった」「台詞・動作・背景・照明・転換など全てがリアルで美しく、演劇として最高などの感想が出されました。

なお、公演に先立っては、戦争体験者や労働者など市民による「大阪公演実行委員会」が結成され、宣伝活動が活発に展開されました。

アメリカ感覚に警鐘

あんがいおまる一座『ハウチュウラブ』



→ネズミ社会を舞台に日本社会の安易な西欧化に警鐘を発したあんがいおまる一座の音楽劇『ハウチュウラブ』 四月、国立文楽劇場

ネズミ社会を舞台に、安易なアメリカ化を進める日本社会に警鐘を發した音楽劇『ハウチュウラブ』が四月下旬、国立文楽劇場などで上演され、反響を呼びました。波除のフリースペー
ス「石原章揮」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまる一座が総出演、中村路子さんの脚本・作詞、北野隆さんの作曲・編曲、あんがいおまる座長の演出で、梶岡志保さんの歌唱指導も得て、ドレミマチャックな舞台ロケとなりました。

◆ネズミ社会に怒りを感じるワケ

——大阪天満市場のネズミ社会。女王シッポとボスのアサキチのもと、恋あり友情あり冒險あり、「ドレミマチャック」な穏やかで賑やかな日々を過ごしていた。が、次々と起こる行方不明や自殺。「何だかおかしい…。アサキチの弟分シロジロは逸早くその空気を感知取り、原因を突き止めようと焦るが、皆それぞれの生活にかまけてのんびりムード。やがてある日、まぎまぎと見せつけられたメリケンネズミのバウと巨気。あまりに異質なその生感によつてやけ危機感を抱く市場ネズミたち。が、時すでに遅

し。遂に「撤退は勝利への第一歩」と新天地で再起を期す決断が下される。火に包まれる市場。一族を逃れさせたシッポとアサキチはその中で愛を交わしつつ最後の時を迎える――。

◆民族の誇り取り戻す道

全体として、物質万能・利益第一・競争原理のアメリカ感覚に浸食されつつある日本社会をネズミ社会に託して鋭く風刺、民族の誇りを取り戻す道を観る者に訴えました。シッポ役梶岡志保さんの気品、アサキチ役・ヨシシ原本さんの風格、シロジロ役・真田克幸さんの切れのある演技は、可愛い子ネズミ役の幼児たちも含めた群像劇を格調高く引き締め、七場それぞれに披露された『ガンバレネズミ族』『闘いの歌』などの力強い合唱と躍動的な踊りは、社会的テーマを下ドレミマチャックに浮き上がらせつつ、進行の心地よいアフセルとなりました。特にクワイマックスの撤退場面での「闘え闘え」誇りを持って「未来に向かつて」怒りの炎をかきたてて「夜の繰り返しは、TPPや安保法制や大阪都構想などアメリカ感覚の政治に抗する国民・市民へのこの上ない激励のよつに響きました。

演劇ガイド

● **あんがいおまるの一座『舞台女優』** 波除のフリスベース「石炭倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しき、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいおまるの一座によるスラジオ公演。——舞台女優八十年の公演先・神戸を訪れた村松秋子。六十年間、ありとあらゆる女性を演じてきた。ホテルで見つけた古いトランクから出てきたのは五十三年前の和彦からの恋文の束。思い出が次々と甦る…。舞台として若くなる女優の夢のような物語……。同劇団の座付き作家であった綾羽一紀さんの原作・脚本をあんがいおまる座長が演出。出演はあんがいおまるさん、八上祐子さん、ヨッシー原本さん。物語を運びモーツァルトなどの名曲を大川真一郎さん(元関西フィルハーモニー管弦楽団代表)がクラリネットで、吉田雅代さん(湊川短期大学非常勤講師)がピアノで生演奏。綾羽さんの命日、五月二十三日(土)の十一時半十四時、十六時半の三回。前売三千円、当日二千三百円。問い合わせ申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八)JR弁天町駅から国道四

二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。

☎六五八一・〇六六四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇・三三四一・三九八。読者プレゼントあり。

ライブ情報

● **八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん** 日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャン」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十六枚目のアルバム『解識』好評発売中▽七月十一日(土)十八時半から江坂ミュージズ(地下鉄江坂駅)出口歩分、☎六二八七・〇二〇二でガーゴイル二十八周年ライブに出演予定。

● **三先のフォーク歌手、ペドロさん** 切断、ブラザース(左手親指切断の共通体験を持つ)二人で〇六年結成のリーダーヤンロで温かな雰囲気。オリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜 二十時ザ・セラー(中央区西心斎橋) ☎六二二一・六四三七)でフォークジャンボリー主宰▽毎月第一火曜 二十時半ロージー(中央区西心斎橋) ☎六二

一三・三九九九)でノンジャンルライブレギュラー出演▽毎月第三火曜 二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町) ☎〇九〇・五八八一・七〇一五)でノンジャンルライブレギュラー出演。

● **市国元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」** ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽五月二十日(土)十時十七時に住吉区の万代池公園で開催の「帝塚山音楽祭」野外ステージ(エントランスステージ)に十一時半から出演予定▽HPは「花☆キャラ」で検索可(港新聞ホームページからリンクも)。



→花☆キャラの演奏風景

みなと

人生

劇

場

場

港区民の手記をまとめた、地元在住の作家・青木健一さんがついせいの地産ドラマ。第八弾は、田中在住の九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (七)

前巻まで 港区のブライサービスに通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。一久美子は一九二二年、六人兄弟姉妹の第一子(長女)として浪速区に生まれた。女遊びと博打に目がない父、弥太郎は腕の良いベルト職人だったが失職を機に転居を繰り返して、久美子が一年の時には賭場に入り浸った。母は下場の賄い屋を守ったが、その仕事もなくなると、賭場の女将の好意で共同住宅へ。五万円の子守り奉公を終えた久美子を父は大和郡山の芸者置屋へ奉公させた。二カ月後、様子を見に来

た母に久美子は「辛い」と訴えた。

● 父に連れ出され新世界の置屋へ

母は家に帰って父に久美子の辛い境遇を話した。父は気が咎めたのか、「そんなに辛いんやったら、朝、店の前を八時に通るから、着の身着のまま出て来たらええ」と母に言い、母は再びやって来た時にそのことを久美子に伝えた。

まだ置屋の誰も起きていない朝八時ころ、久美子が玄関の前立っていると、本当に父は迎えに来てくれた。ところが、父は久美子の手を引いて汽車に乗ったが、家には連れて帰らず、父の実家に近い古市の知人宅へ寄ったのである。そして大阪のミナミや堀江などの花柳界に顔の利くその男の人に紹介状を書いてもらい、二人で新世界の芸者置屋へ向かった。

● 前借りの飛び出しを繰り返す算段も

本当は小学校六年間をすまさない、たごえ男習いであつても働け許可が下りないことをその人に「まあ、二、三日置いときなはね」と言われ、久美子はその日から毎日働かなくてはならなかった。その新世界の置屋にはたごえの芸者がいて、活気があつた。みな久美子をゆめか

わいがり、面倒をみてくれた。

ところで大和郡山の置屋には前借りをしていたので、年季を果たさず飛び出したことは詐欺に当たるようだが、よく考えれば境電神社の観点から、その置屋も表立って久美子らを訴えることはできず、結局は泣き寝入りをしたようだった。

父はそんな事情を知っていたからだろう、その後、その新世界の置屋を皮切りに、前借りをしては久美子を預け、飛び出させては次の置屋へ移らせるということを繰り返すこと何度か試みた。が、実際にはそううまくいかず、大してお金にはならなかったようだった。

● 父を置き、大阪市港区の伯父宅へ

そんなことをしながら、父はやはり博打漬けの毎日で、母が内職して稼いだわずかのお金まで取り上げ、賭け事に使った。ある雨の日、母が「見つからんよつ」と行李の底に隠しておいた五円札を、母の留守の間にもって来て田舎で見つけ、持って行ってしまった。帰ってきて行李がひっくり返っているのを目撃し、母はいついつ決心した。「こんなことしてたらあ

かん一。

母と久美子とは父を置いて、母の次兄（久美子にとっては伯父で次屋嘉平と叫ぶ）のいる大阪市港区へ行くことになった。電車賃がないので、やはり「大阪へ帰りたい」という事情のあった近所の散髪屋親子と一緒にトラックを借り、その荷台に乗り込んだ。警察に見つかると降ろされるので、シートを被った。

港区八幡屋（現在の港嘴）にあったその伯父の家は、一階が三畳と六畳、一階を人に貸しており、炊事は共同だった。伯父家族は一階奥の六畳に住み、久美子と家族五人は二畳に入った。その伯父は、元は舟乗りだったが、その時には辞めて夜鳴きという屋を営んでいた。

● 父は上海へ、母は仕事求め歩き回る

このころ、博打宿に置いてけ堀を食った父は母からの手紙を見せすべに引越し先へやって来た。が、母はな／＼ある社長の世話で上海へ行へいになった。博打漬けの生活を送っていた母も、ベルト技師としての父の評判は業界に残っており、その社長はその技術を海外進出に必要と見込んだのだらう。しかし、父は再度金四



十田を受け取ったものの、「知らん所へ行くんや。全部持っていかん」と心細いから」と、その日の食にも欠く家族に一銭も入れることはなかった。

母はそれでも何とか子供たちを食へさせようと必死だった。母は弟の捨五郎を負い、その時まだ十歳にならなかった久美子は下の妹の照子をおんぶし、上の妹の富子の手を一人で引き、仕事を求めて歩き回った。九条の商店街では客を装つてな雇われへん」と断わられた。歩き疲格好してな雇われへん」と断わられた。歩き疲れ、お腹もすいたので、お宮さん（西区九条の茨住吉神社）の屋台で五銭のばら寿司を買った。それを五人で分けて食へながら、「仕事ないな」と母はため息をつきながら、久美子

は今も思ひ出す。

伯父が夜鳴きごんをしていたので、家にはその出汁を取るための鯉節の粉があった。久美子らはおかずを買つお金もなかったので、昼間は幸運橋の袂の十手（安治川に続いていた）で時間をつぶし、夕方に伯父（嘉平）が商売に出てしまつて、その鯉節の粉で味付けしたご飯を食へたものだった。

● 学校をやめ子守り奉公に

そのうちに母はいつにかして、露店で昆布売りの仕事を始めるようになり、久美子にも仕事の口が来た。一階に間借りしていた人の紹介で、同じ港区の田中元町の一軒家の子守りだった。一年分の給料五田を先払いするといつ約束が魅力だった。久美子と母は相談し、学校を途中でやめることになるといふので、生きたいためには仕方がない」とその口を受けた。一つして久美子は十歳から十三歳までの三年間、ちよつと満州事変（一九三二年九月）をきっかけに日本が中国大陸で戦火を拡大していく時代、学校を完全に離れて奉公生活を送ることになったのである。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはら あなこ
杉原 麻子さん(九四) 〓南市岡在住 ⑨



前編まで 一九一〇年香川県に生まれ、中国での戦火拡大の中、看護学校から赤十字病院へ進んだ。二十歳で結婚し、満州の新京へ。不自由な生活を送ったが、四五年八月、ソ連参戦で北朝鮮へ疎開のあと再び新京へ。しかし家

財は略奪され、難民収容所は地獄の光景。シベリア送りの列車から脱出した夫とは奇跡の再会。酷寒の病院で長女出産。三家族共同生活も略奪や中国内戦で苦難が続く中、四八年夏、遂に引き揚げが現実。貨車や徒歩での過酷な十日間の旅を経て「口島」から駆逐艦に乗り込んだ。

五年ぶり故国の土

戦後も七転び八起き、平和願ひ投稿も

船室は暗くて天井が低く、頭がつかえて、座っているのがやっとでした。それでも私たちには天国でした。船内では洗面器一つで海水を汲み、洗面やおしめ洗いなじに使用しました。

◆ 博多港で十日間、心晴れ晴れ

駆逐艦はさすがに速く、海上で一晩停泊しただけで、翌日には博多港の沖合に錨を下ろしました。そこで「コロ」などの伝染病予防のための検疫で十日間待機。その間は懐かしい日本の山々、夜はちりちりと瞬く街の灯を眺めながら過ごしました。

九月十一日、よつやぐへ下船。実に五年ぶりの

「満州からの引き揚げルート例(図は延吉から新京を経て佐世保に上陸するコース。私たちは新京から口島を経て博多港に上陸した)」



故国の土でした。上陸するや米兵に頭から「消毒剤」を振り掛けられて、髪も衣類も真っ白。何とも情けない姿でしたが、心は晴れ晴れとしていました。

港の収容所では、苦勞を共にした仲間たちとの別れを惜しまました。「お元気でね」「あなたもね」。顔を見合わせ、堅い握手を交わし、それぞれの故郷へ。私も夫や長女と共に、両親の待つ高松へと向かいました。

◆忘れられぬ 二十世紀の味

今度はやつと人間らしく座れる客車に乗れま
した。途中の岡山駅で買って食べた 二十世紀は
湯き切った口内、まるで命の水のようでした。
長女にもお乳を通して甘い汁が伝わったこと
でしょう。

高松駅から自転車を改造した乗り物に乗り、
焼け野が原と化した市内を抜け、一路、郷里の
川島へ。肉親の温かい出迎えを受け、長かった
私たちの苦難の旅はようやく終わりを迎えたの
でした。

◆三子育へ 看護婦やベビシッターも

ひどい栄養失調で死の寸前だった娘は故国の
水を飲んで恢復し、すくすく成長。一九四八(昭
和二十三年)には長男が、二年後には次男が生
まれました。一九五六(昭和三十一年)、私た
ちは大阪へ出、阿倍野区から港区へ。一九八五
(昭和四十年)には同区南田岡の現住所地へ越
つてきました。

夫は商店街で商売を営み、私も手伝いました。
その後、次男夫婦に店を譲り、孫の守りをして
二年を過ごしましたが、同居の長男が転勤した

←博多港に上陸したコロ島からの引揚者(四六
年八月)『毎日新聞社』『一億人の昭和史』より



五十八歳の時、大正区泉尾の済生会病院で看護
婦長をしていた友人の勧めで、若いころ取得し
た看護婦資格を生かして同病院へ勤め始めまし
た。夫も快く同意し、支えてくれました。

病室では寝たきり患者のケアに始まり、全身
清拭、食事介助、洗髪、体位変換、さらには血

圧測定や聴診器、注射など、戦後医学の進歩に
対応した技術も習得。余裕ができた半年後から
は、患者の相談相手になるなど、精神面のケア
にも力を注ぐようになりました。若い看護婦さ
んたちに混じり、人の健康回復をお手伝いする
仕事は、穏やかな家庭生活に安住しつつあった
私の精神を心地よく刺激してくれました。

そして六十四歳まで六年間勤めた後、一年
の休養を経て、今度は自分の子育ての経験を生
かしてベビシッターに挑戦。ある女医さんの
赤ん坊一人を預かり、兄が八年生、妹が二年生
になるまでお世話を続けました。

一方、夫は商売の傍ら地域の世話役などにも
力を尽くしていましたが、二〇〇一(平成十三)
年、八十八歳で他界しました。

◆孫は九人、投橋や絵画も

現在、長女は三児の母として幸せに暮らして、
長男は官庁退職後、税理士となり、二人の子持
ち、次男は商売を営み、やはり三人の子がいま
す。それで、孫は全部で九人です。

私は仕事を離れた三十年ほど前から、戦中戦
後の苦しかった体験や戦後の幸せな生活、また

今の世の中への思いなどを短い文章や短歌・俳句・川柳などにしたため、新聞へ投稿するようになりまし。また二十年ほど前から絵を描くことを覚え、近隣や旅先でのスケッチをアクリルなどで仕上げた作品を展示会などで発表することを楽しみとしてきました。

現在、体のあちこちに多少の不自由は歳相心



→ 苦楽を共にした夫と旅先で（一九九一年十月）

にありますが、曲がりなりにも今日まで心身共に健康で過してこられたのは、私の青春でも重なる戦前・戦中・戦後の激動期、郷里で、学校・病院で、満州で、友情と親切を示して下さいた人々、さらに戦後も続いた波乱の生活や仕事の中で、やはり私たち家族を励まし助けて下さった多くの方々、そして何より肉親としての愛と献身を惜しみなく注ぎ続けてくれた夫や子供や孫たち家族がいたからだと思ひ返り、それらへの深い感謝の念に浸りつつ、日々穏やかな時間を過しております。

◆ 苦難の体験伝え残す責務

戦中・戦後の忍従・苦闘の体験は、どんな困難にも堪えらる強い精神力を私に与えてくれました。帰国後も夫と共に七転び八起きの人生でしたが、そのつど當時を思い出し、どんな試練に遭つても前向きに努力を続けねば、いつか希望は叶えられないという信じて生きてきました。そして実際、凍て付く満州の戸外で流れ星に託した思いは一年後の帰国となって遂げられ現在の幸福にもつながったのです。

九十余年、波乱の人生でしたが、やはり戦争

→ 七十歳から楽しむようになった絵画。上はスケッチ旅行先で、下は展示会出展作の前で



体験が一番強く心に残っています。遠い昔の出来事ですが、昨日のよこのようにも思われます。一度と戦争が起きないよう、また自然災害などどんな苦難も乗り越えていけるよう、こつこつと体験を次世代に伝え残していけるのが私たち世代の務めではないでしょうか。

残り少ない人生ですが、今まで生かして頂いたことに感謝しつつ、戦争のない平和な世の中が続く、誰もが笑顔で暮らせる心豊かな社会が来ることを祈っております。

波乱ある人生歩みて九十余年 老いて静かな日々を過ごし

（おわり）

文化的イベント案内

みなとカルチャー

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第二六八回定期演奏会」 「神や人間への希望を美しく描いた英国紳士…R.V.W.の 由園」と題し、同楽団首席指揮者・藤岡幸夫さんの指揮で、①ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品803②ブオーン・ウィリアムス：田園交響曲（交響曲第3番）を演奏。ピアノ独奏は日本を代表するピアニスト・横山幸雄さん、ソプラノは若下晶子さん（第七十七回日本音楽コンクール声楽部門第一位、パナニック賞）。六月十二日



→ 定期演奏会で指揮を担当する藤岡幸夫さん

©SHINYAMAGISHI

← 定期演奏会でピアノ独奏を担当する横山幸雄さん①とソプラノを担当する若下晶子さん②



（金）十九時からザ・シンフォニーホール（JR大阪環状線「福島駅」から北へ徒歩約七分）で。S席八千円、A席四千五百円、B席三千円、C席一千円、学生席（十五歳以下）千円。全席指定・消費税込。 ☎六五七七・三三一。

● 港図書館 ①図書展示「大阪城と日本の名城の本」展 五月二十一日（日）まで開催中。大坂の陣四百年にちなんだ展示②図書展示「こどものほんだな」展 六月一日（火）から。展示本を紹介した冊子『こどものほんだな 1015』配布も③ミニ図書展示「こどものほんだな」展 六月三十日（火）まで開催中。子ども向け④おたのしみ会 毎週水曜日の十五時半～十八時にじゅうたん「コーナー」で。幼児と保護者を対象に絵本の

読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要⑤あかちゃんのおたのしみ会 毎月第一金曜日（六月は五日）の十一時～十一時半にじゅうたん「コーナー」で。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要 ☎六五七六・三三四六。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第三回、通算第一四五回。五月二十七日（水）十九時～二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん（徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下）と旭

→ 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②



● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家・笑福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

↑「第二五四回オーク弁天寄席」に出演する笑福亭達瓶さん(上)と露の瑞さん(下)



堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南陵門下)をしギキョーに、今回は笑福亭達瓶さん(京都市出身、笑福亭鶴瓶門下)、露の瑞さん(大阪府出身、露の都門下)も、先着百二十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORCC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。05577-1410。

● 弁天町ORCC200生涯学習センター・弁天シネマ倶楽部『巴里の屋根の下』 「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第六回、通算第二十九回。『巴里の街角、陽気に歌をうたって楽譜を売る青年アルベール』。あの日、集まった群衆の中に美



→ 弁天シネマ倶楽部『巴里の屋根の下』から

しいルーマニア娘ポーラを見つけて一目惚れ。しかし、街で幅を利かせた悪漢フレッドもまた彼女に目をつけ、強引に連れて行ってしまふ。気落ちしたアルベールがその晩、親友のルイとカフェに行くと、なんとそこにはポーラの姿が！ 声をかけようとするも、ルイまで彼女に一目惚れしてしまい。映画が無声からトーキーへと移行していく時代の作品。トーキーならではの歌と音楽。無声映画独特の感情移入を誘う演技。両者の良いところが奇跡の共存を果たした、魅力的なラブ・コメディ。監督はルネ・クレール。出演はアルベール・プレジヤン、ポーラ・イレリ他。一九三〇年、フランス、モノクロ、九六分。五月十六日(土)十時と十四時か

ら講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。05577-1410。

● 市岡寄席 市岡住民が運営する地域寄席の七回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人材」を謳い文句に、市岡在住の落語家・桂福丸さん(桂春團治一門、桂福団治門下)の落語一席と、ゲストの南市岡出身の桂あさ吉さん(桂米朝一門、桂吉朝門下)の落語一席を楽しま。六月八日(土)十四時から紫雲山西明寺(市岡一・一・四)で。先着八十名。菓子付き。抽選あり。車イス入場のOK。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会(市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振興町会、紫雲山西明寺、繁栄商店街振興組)など市岡にゆかり



→ 第七回市岡寄席に出演する市岡在住の桂福丸さん(上)と南市岡出身の桂あさ吉さん(下)

の諸団体や個人から成る。桂福丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語発語でアメリカ公演も。二〇〇七年一月、四代目桂福団治に入門。名付け親

は作家の故・藤本義一氏。天満大神繁昌亭出演中。TV番組やラジオ番組(毎週土曜十四時半、十五時に弁天町のラジオ大阪「言葉のことバカリ」にレギュラー)でも出演。著書に『怒られカ』(明治書院)。桂あさみさんは一九九二年、故桂吉朝に入門、総領弟子。笛の名手としても知られる。☎〇五七二一・五八二六西明寺。

●ギヤラリーはたなか「橋本寿一陶展」南蛮粉引、信楽なごの陶芸展。五月十七日(日)まで開催中。十一〜十九時(最終日は十七時まで)。



→はたなかで開催の「橋本寿一陶展」⑤と、風庵で開催の「クラフト権展」⑥の展示作品から

磯路一・一・五(港区役所向かい)。☎〇八五七二・五九八七。

●ぎやらりー&かふえ風庵「クラフト権展」丹後半島(京都府与謝野郡与謝野町)の工房「クラフト権」による草木染・手織・木の小物。五月三十日(土)まで展示中。「太陽と雨と大地に育まれた草木の色が素敵」なご好評。「風庵」は南市岡二・一・一〇(繁栄商店街内)、☎四九八五・五九八二、十時〜十八時開館(日曜定休)。

●ガラスアート・ナカイグループ「生徒作品展」〜光と影〜 ガラスアートNAOMI(磯路)など同グループの生徒作品を一堂に。二十七回

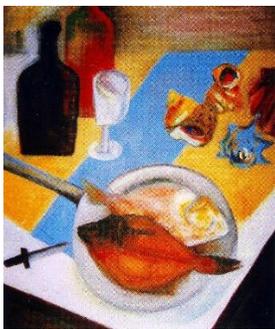
目。ガラスアートは江戸期から伝統の京都手描き友禅手糸自技法を応用して一九八六年に考察された新しい芸術。ガラス特有の透明感・幻想感や技法のシンプルさが人気。五月十四日(木)〜二十四日(日)の十一〜十七時(十九日休)最終日十五時までに池田市緑のセンター(阪急池田駅下車、バス停③から五月丘小学校前で下車)すぐ一階ギヤラリーで。入場無料。金元(磯路)丁目、☎〇五七六・二三四四。

●禾葉書道教室「作品展」港区の女性書家・

禾葉さんから書を学ぶ生徒 千数人の作品展。五月十八日(月)〜十九日(金)の九〜十七時半(十日休)に港区民ギャラリー(港区役所一階)で。入場・鑑賞無料。

●ガレリア・リバリア「花山美和子作品展」平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた川島恵美子さん(八三)ハ幡屋在住から二三年十一月より絵画を学ぶ花山美和子さん(田中在住、一元会進会員、〇八年大阪支部展、〇九年全国公募展に出品)による作品展。「日常のかたち」がテーマ。五月二十三日(土)〜三十一日(日)の十一〜十八時に画廊&アトリ

エ「ガレリア・リバリア」三先二・一三二二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。入場



→ガレリア・リバリア④で開かれる「花山美和子作品展」出品作から『静物』(12号F)④

無料。☎七五〇二一四一八八。

●シネ・ヌーヴォ『女優 原節子のすべて』 伝

説の女優・原節子のデビュー八十周年を記念し、戦前の初期作品から小津安二郎監督との「ロンバ」全作品、まだDVD化されていない貴重な出演作など四十数本を六月十一日(金)まで一挙上映中。五月十五日以降の上映作品は『め』、『音』『ソんちゃん』『舞の舞』『美しき母』『驟雨』『愛情の決算』『婚約二羽鳥』『女囚と兵隊』『大番シリーズ』『東京景色』『智恵子抄』最後の脱走』『女ごもるごも』『東京の休日』『女



→純真な愛と狂気に揺れる智恵子を描いた感動作『智恵子抄』(上)と、国造りの神話を映像化した大スペクタクル『日本誕生』(下)

した大スペクタクル『日本誕生』(下)

「ジュン」『日本誕生』『路傍の石』『娘・妻・母』『秋日和』『慕情の人』『小泉川家の秋』

『娘ご私』『忠臣蔵 花の巻・雪の巻』(最終作)も。当一回一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四)地下鉄中央線九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、☎六五八一・一四一六へ。

●ねごじやらしのシャンテ☆カフェ 懐かしい

歌ごきごも若菜も声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・一〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。歌集貸与。参加費千円(税込)。第十三回は五月二十三日。問い合わせは「ねごじやらし音楽事務所」(弁天四・一



→過去のねごじやらしのシャンテ☆カフェから

・一一・三〇一、☎六五五八・六八八、http://neco.jyarashi.jimd.o.com/または「ゆづりはの会」(☎六五七一・六八四)まで。

●ガットネロ 市岡在住のシャンソン歌手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」HAMORRI-BEのつた★カフェ「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽音楽と朗読による『茶色の朝』とアンズの夜(六月十一日)十四時から兵庫県立芸術文化センター小ホールで。参加費二千円(学生半円)。歌と朗読・松浦由美子。朗読：柏原圭子(朗読劇団あめんぼ座)▽天王寺区上本町六・一・二七、地下鉄谷町九丁目駅⑥出口、☎六七六七・〇〇二一。



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん(上)と「つた★カフェ」出演のHAMORRI-BE(下)

「つた★カフェ」出演のHAMORRI-BE(下)

ひとくちPR

(二行)税込(1000円)

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者

手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。二十名。就労支援B型作業所。相談支援事業所わたぼうし(夕凧)一・二・八・一〇サンプートハイム夕凧二階、TEL六五七六・〇一〇〇、FAX六五七六・〇一〇三。

● **介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談

②手続きを代行③デイサービスは送迎付きで入浴・朝食・手芸・カラオケ・体操など④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院など手伝い。NPOみなと合同ケアセンター(南市岡三・六・一・六) ☎六五八三・四八八〇、FAX六五八三・一・二二二。

● **そらばん学習のなまものが変わるー！** 右脳活性化

見直される効用。そらばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きろる力」「学び力」も強めよう。森友総合教室 **検査** (夕凧)一・一三・七二津神社西側 ☎六五七七一・六八七七。

● **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所見募集。

指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯☎〇九〇・五八九一・〇三三

四(西原) ☎六五七二・六八四三あおぞら学童。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館ひらのや(南市岡三・一・一・八) 繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミニト(八幡屋)一・四・八、入舟公園前、大阪信金横十々十八時営業、日足休。

● **ボクササイズ** 女性も小中高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費八千円無

期限十枚綴りチケット八千円。入会金二万円を只今半額。月水金十九時半〜二十一時半。港水クシングジム(三先)一・三・九 http://amebio.jp/minatogyu/

● **磯路ピアノ教室** 大きい人も小さい人も楽し

くレッスン。 ☎六五七四・三三四 三東 條和恵

● **何でも書きます、まじめです** 手紙案内報告・宣伝・司会などの文案。自分史・社史・団体史などの書き。新聞・会報・書籍などの取材・編集。ホームページ作成・記帳代行など。 ☎六五

七一・四八二六 港新聞・飯田編集事務所。

ひとくち伝言板

● **リンク差上げます** 不要になった大量の

BCI-9PGBK、BCI-9BK、BCI-7ec、同M、同Y(キヤノン)ix5000などに対応。 ☎六五七一・四八二六港新聞。

読者プレゼント

※いずれもハガキに当日の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第二八八回定期演奏会」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **弁天町ORC200生涯学習センター「オー**

ク弁天寄席」(三文化案内)招待券へア一組に。

● **あんがいおまる一座『舞台女優』** (演劇カイド)招待券をへア一組に。

● **繁音亭手拭い・じゅげむ手拭い** 市岡寄席

(みなとカルチャー)提供を各一名様に。



